

# 日本の将来推計人口 (令和5年推計)

## 推計結果の概要

令和5年4月26日公表

国立社会保障・人口問題研究所

<http://www.ipss.go.jp/>

※ 推計手法と仮定設定の方法については「日本の将来推計人口(令和5年推計)推計手法と仮定設定」

# 「日本の将来推計人口（令和5年推計）」 役割と目的

- 人口変動の3要因である①出生、②死亡、③国際人口移動について仮定を設け、将来の日本全域の人口規模と構造の推移を推計するもの。
- 5年ごとに実施される国勢調査に合わせ、5年ごとに実施される。
- 社会保障審議会人口部会における議論も踏まえて、国立社会保障・人口問題研究所が実施（旧人口問題研究所時代を含め、今回は16回目）。

※ 新型コロナ感染拡大による影響を受けて、通常スケジュールよりも1年遅れて取りまとめられた。

- 現状で求め得る実績データと人口学的手法を組み合わせ、過去から現在に至る傾向・趨勢を将来に投影（projection）するものであり、現在の傾向・趨勢が続いた場合に帰結する状況を示して、我々が行うべき行動について判断材料を得るためのもの。
- ※ コロナ禍で調査された結婚や出産に関する調査（第16回出生動向基本調査）において、未婚者の結婚希望や希望する子ども数の低下が見られたが、将来推計人口ではこのような意識の変化に関するデータは用いていない。
- 将来起こり得る社会経済要因や政策効果を科学的・定量的に予測することは困難であることから、こうした要因は織り込まない。これは、国連や主要先進国間で共通の枠組み。

# 「日本の将来推計人口（令和5年推計）」

## 方法と考え方

- 対象は、外国人を含む日本に常住する総人口。
- 令和2(2020)年国勢調査による人口を出発点として、2021年から2070年の50年間を推計。
- 推計の方法は国際的に標準とされる「コーホート要因法」。人口変動要因である出生、死亡および国際人口移動について、それぞれの要因に関する統計指標の実績の動向を数理モデル等により将来に投影する形で男女年齢別に仮定を設け、それらを基点の人口に適用して1年後の10月1日時点の人口を男女別年齢各歳別に推計する。
- 将来の出生推移・死亡推移について、それぞれ中位、高位、低位の3仮定を設け、それらの組み合わせにより9通りの推計を行った（「基本推計」と称する）
- このほか「長期参考推計」（2071～2120年）、「日本人人口参考推計」および出生、国際人口移動について機械的に条件を変えた「条件付推計」を参考推計として実施。

# 日本の将来推計人口(令和5年推計)の方法と仮定

## 方法

### ■ 国際的に標準とされる人口学的手法に基づき推計

人口変動要因である出生、死亡、国際人口移動について、現状で求めうる実績データに基づき、過去から現在に至る傾向・趨勢を将来に投影 (projection) する形で推計 (これまでの社会経済環境や政策効果は過去の趨勢に織り込まれているとして推計)

### ■ 直近の令和2(2020)年国勢調査の人口を基点とし、長期の投影に際しては、新型コロナウイルス感染拡大におけるデータを除外

## 出生

### ■ 将来の出生率については、①「結婚する女性の割合」、②「夫婦の最終的な平均子ども数」、③「離死別や再婚が出生に与える影響」の3つの要素を勘案して計算

	出生率(注)	=	結婚する女性の割合	×	夫婦の平均子ども数	×	離死別・再婚の影響
2005年生まれ (今回推計)	1.29 [1.36]		80.9%		1.71人		0.966
2000年生まれ (前回推計)	1.40 [1.44]		81.2%		1.79人		0.955

(注) 出生率は日本人女性の出生によるもの。ただし[ ]内は外国人女性が産んだ日本国籍出生数を分子に含んだ人口動態調査と同定義の出生率。また、出生率算定にあたっては、最新実績値部分について実績値と算定式値との乖離を調整する係数(0.963)(前回1.010)を乗じている。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響を除外するため、初婚については2019年まで、出生については2020年までのデータを用いて長期の水準を投影により求める。

## 死亡

### ■ 死亡率や平均寿命などが今後も緩やかに改善が続く前提で推計 2070年には、男性85.89年、女性91.94年(前回男性84.95年、女性91.35年)

※国勢調査年(2020年)までの実績を踏まえ推計

## 国際人口移動

### ■ 外国人の国際人口移動について、近年の入国超過数の平均値が今後も継続するものとして推計 (今回:年間16万人程度、前回7万人程度)

※新型コロナウイルス感染症の影響のある2020年を除き2016年~2019年の平均値を設定

# 出生、死亡および国際人口移動 の仮定

# 出生仮定

## 参照コーホート※のライフコース指標と算定式

※将来推計時点で出生過程に入る直前のコーホート（2005年生まれの女性（2020年に15歳））を「参照コーホート」として定める。

### コーホート合計特殊出生率の算定式

$$\begin{aligned} \text{コーホート合計特殊出生率} &= (1 - 50\text{歳時未婚者割合}) \times \text{夫婦完結出生児数} \times \text{離死別再婚効果係数} \\ &= (1 - 50\text{歳時未婚者割合}) \times \{ \text{期待夫婦完結出生児数} \times \text{結婚出生力変動係数} \} \times \text{離死別再婚効果係数} \end{aligned}$$

仮定の種類	50歳時未婚者割合 (%)	平均初婚年齢 (歳)	夫婦完結出生児数	夫婦完結出生児数		離死別再婚効果係数	調整係数	コーホート合計特殊出生率 (日本人女性出生率)
				期待夫婦完結出生児数	結婚出生力変動係数			
実績値 (1970年生まれ)	15.0	27.2	1.83	1.88	0.972	0.965	0.969	1.45
中位の仮定 (2005年生まれ)	19.1	28.6	1.71	1.76	0.969	0.966	0.963	1.29
高位の仮定 (2005年生まれ)	13.4	28.1	1.91	1.80	1.062	0.966	0.970	1.55
低位の仮定 (2005年生まれ)	25.6	29.0	1.54	1.73	0.892	0.966	0.959	1.07

仮定の種類	コーホート合計特殊出生率	出生児数分布 (%)				
		無子	1人	2人	3人	4人以上
実績値 (1970年生まれ)	1.45	27.9	18.7	37.3	12.6	3.5
中位の仮定 (2005年生まれ)	1.29	33.4	19.4	34.6	10.6	2.0
高位の仮定 (2005年生まれ)	1.55	24.6	19.2	37.4	14.4	4.5
低位の仮定 (2005年生まれ)	1.07	42.0	18.8	30.8	7.4	0.9

# 出生仮定

## 参照コーホートの諸要因に基づく長期的投影水準(p.14)

- 合計特殊出生率の長期的投影水準は、1.44から1.36に低下（日本人女性の出生率では1.40から1.29に低下）（中位仮定）

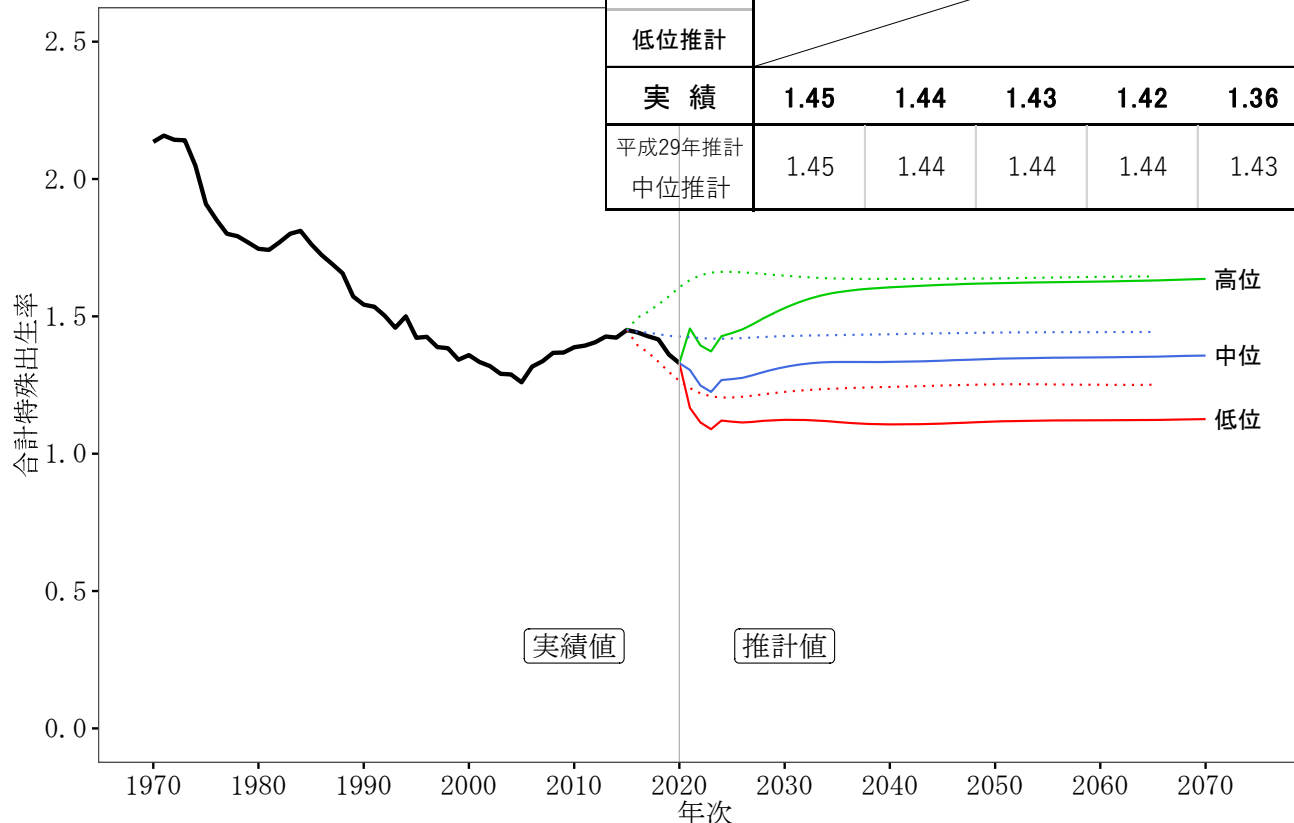
仮定の種類	出生仮定指標 (日本人女性)	現在の実績値 1970年生まれの世代	仮定 2005年生まれの世代 (参照コーホート)	合計特殊出生率					
				令和2(2020)年実績	経過	令和52(2070)年	平成29年推計 令和47(2065)年		
				人口動態調査と 同定義 (日本人女性)	人口動態調査と 同定義 (日本人女性)	人口動態調査と 同定義 (日本人女性)	人口動態調査と 同定義 (日本人女性)		
中位の仮定	(1) 平均初婚年齢	27.2 歳	→	28.6 歳	1.33 (1.31)	最高値 令和52(2070)年 1.36	1.36 (1.29)	1.44 (1.40)	
	(2) 50歳時未婚者割合	15.0 %	→	19.1 %		令和16(2034)年 1.30			
	(3) 夫婦完結出生児数	1.83 人	→	1.71 人		最低値			
	(4) 離死別再婚効果	0.965	→	0.966		令和5(2023)年 1.23			令和5(2023)年 1.20
	(5) コーホート合計特殊出生率	1.45 人	→	1.29 人					
高位の仮定	(1) 平均初婚年齢		→	28.1 歳	1.33 (1.31)	最高値 令和52(2070)年 1.64	1.64 (1.55)	1.65 (1.59)	
	(2) 50歳時未婚者割合		→	13.4 %		令和37(2055)年 1.55			
	(3) 夫婦完結出生児数	同上	→	1.91 人		最低値			
	(4) 離死別再婚効果		→	0.966		令和5(2023)年 1.37			令和5(2023)年 1.35
	(5) コーホート合計特殊出生率		→	1.55 人					
低位の仮定	(1) 平均初婚年齢		→	29.0 歳	1.33 (1.31)	最高値 令和3(2021)年 1.17	1.13 (1.07)	1.25 (1.21)	
	(2) 50歳時未婚者割合		→	25.6 %		令和3(2021)年 1.15			
	(3) 夫婦完結出生児数	同上	→	1.54 人		最低値			
	(4) 離死別再婚効果		→	0.966		令和5(2023)年 1.09			令和33(2051)年 1.07
	(5) コーホート合計特殊出生率		→	1.07 人					

コーホート合計特殊出生率の算定にあたっては、標本調査を含む実績値と人口動態統計に基づく実績値との整合性を図るための係数を乗じている。1970年コーホートの調整係数は0.969、参照コーホートの調整係数は中位0.963、高位0.970、低位0.959となっている。

# 出生仮定

- 合計特殊出生率は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大以前から見られた低迷を反映し、長期的投影水準は、前回推計の1.44(2065年)から1.36(2070年)に低下(中位仮定)。また短期的には新型コロナウイルス感染拡大期の婚姻数減少等の影響を受け低調に推移(p.43, 表4-1、p.47, 図4-1)。

	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	...	(2070)
中位推計	/					1.33	1.30	1.25	1.23	1.27	...	1.36
高位推計							1.46	1.39	1.37	1.43	...	1.64
低位推計							1.17	1.11	1.09	1.12	...	1.13
実績	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	-	-	-	-	-
平成29年推計 中位推計	1.45	1.44	1.44	1.44	1.43	1.43	1.42	1.42	1.42	1.42	...	1.44

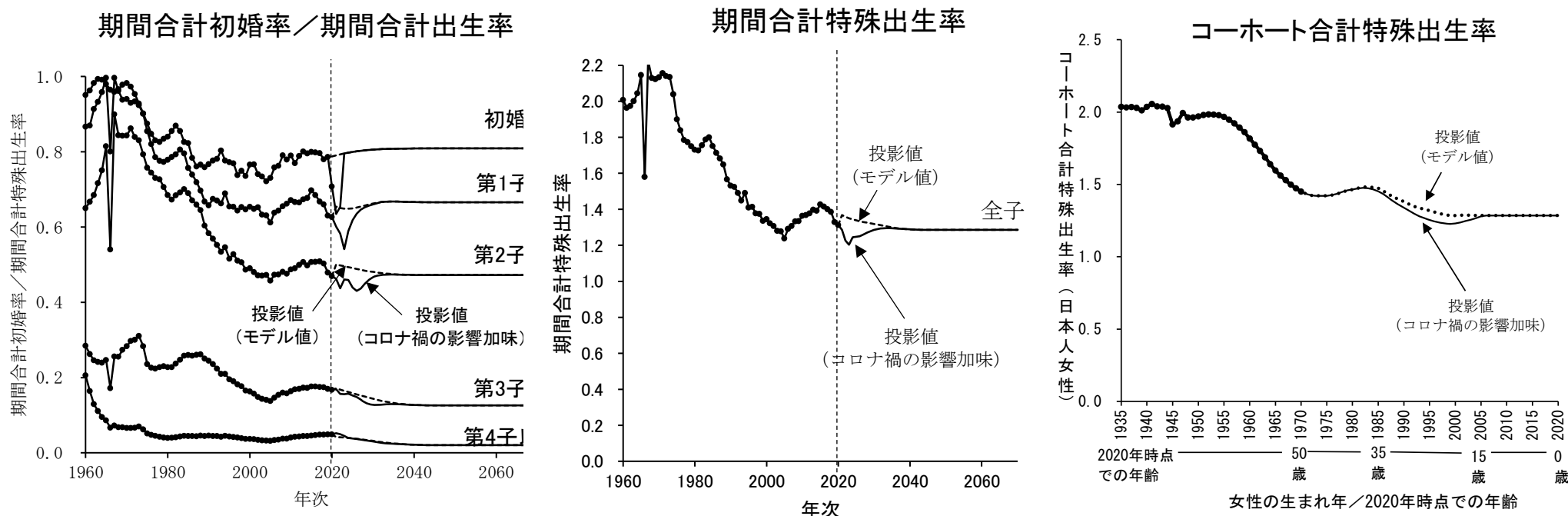


破線は前回推計。人口動態調査と同定義に基づく合計特殊出生率。



- 短期的出生率には、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大期における初婚減、出生減の影響を加味している。参考としてコロナ禍における実績値を反映する前後の期間合計特殊出生率およびコーホート合計特殊出生率を破線と実線で示した。

コロナ禍における実績値を反映する前（破線）、反映した後（実線）の将来の合計特殊出生率



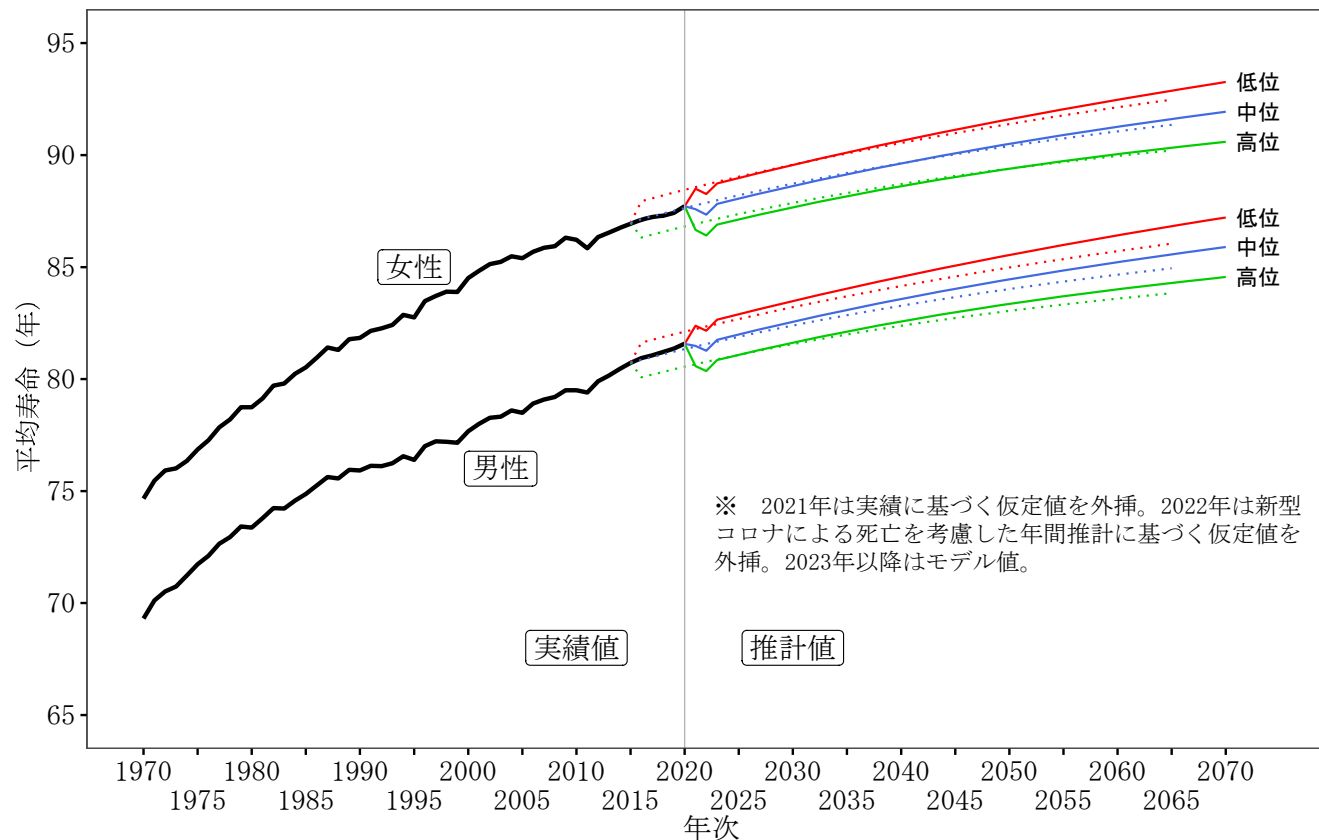
期間合計特殊出生率（人口動態調査定義）

	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	...	(2070)
中位推計						1.33	1.30	1.25	1.23	1.27	1.27	...	1.36
コロナ実績 反映なし							1.39	1.38	1.37	1.37	1.36	...	1.36
実績	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	-	-	-	-	-	-
平成29年推計 中位推計	1.45	1.44	1.44	1.44	1.43	1.43	1.42	1.42	1.42	1.42	1.42	...	1.44

# 死亡仮定

- 平均寿命は、2020年の男性81.58年、女性87.72年が、2070年には男性85.89年、女性91.94年に伸びる（中位仮定）。長期的投影水準は、前回推計（2065年に男性84.95年、女性91.35年）と比較して、わずかに伸びる程度（p.44, 表4-2、p.47, 図4-2）。

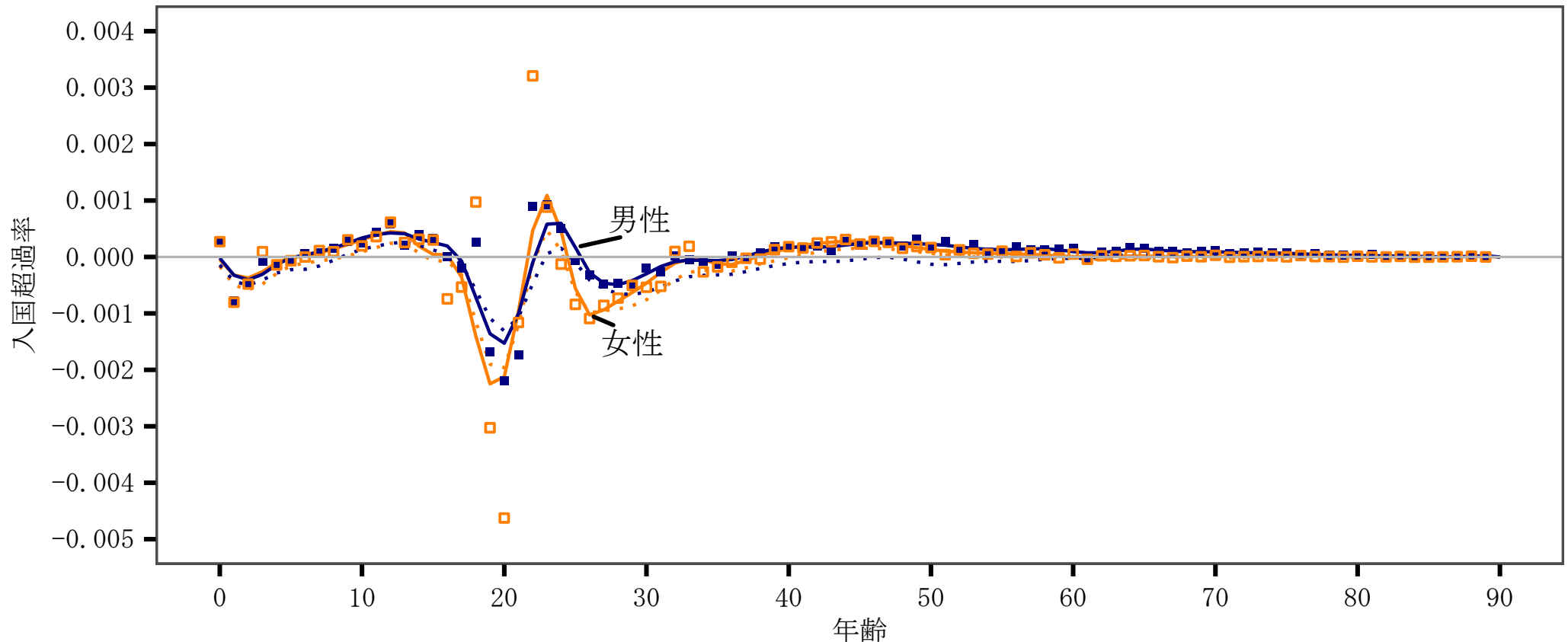
平均寿命	実績 令和2(2020)年	死亡中位仮定 令和52(2070)年	平成29年推計 令和47(2065)年
男性	81.58年	85.89年	84.95年
女性	87.72年	91.94年	91.35年



破線は前回推計。

# 国際人口移動仮定（日本人）

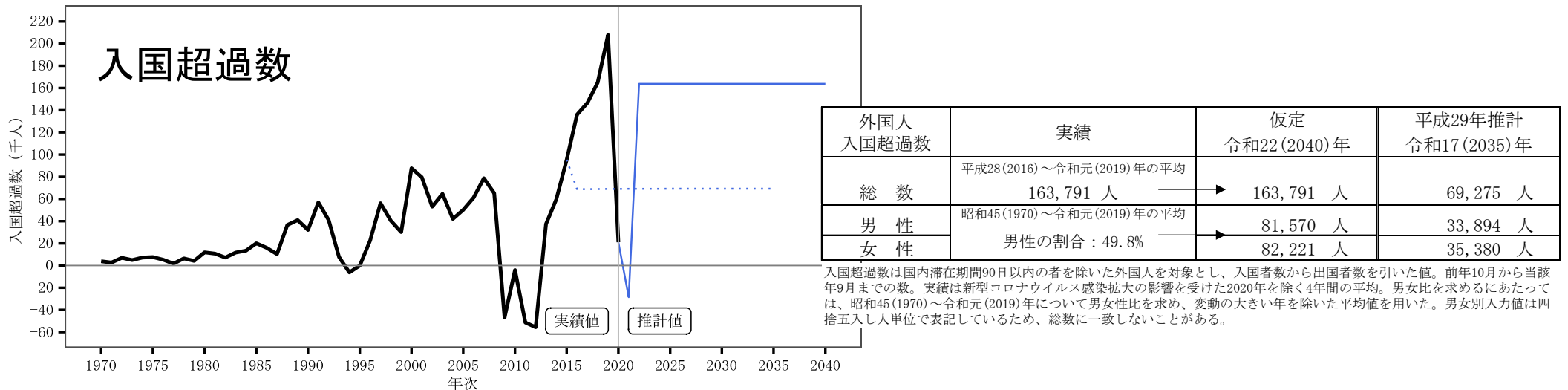
- 日本人の国際人口移動は、近年の動向を反映し、出国超過傾向がわずかに緩和(p.45, 表4-3、 p.48, 図4-3)。



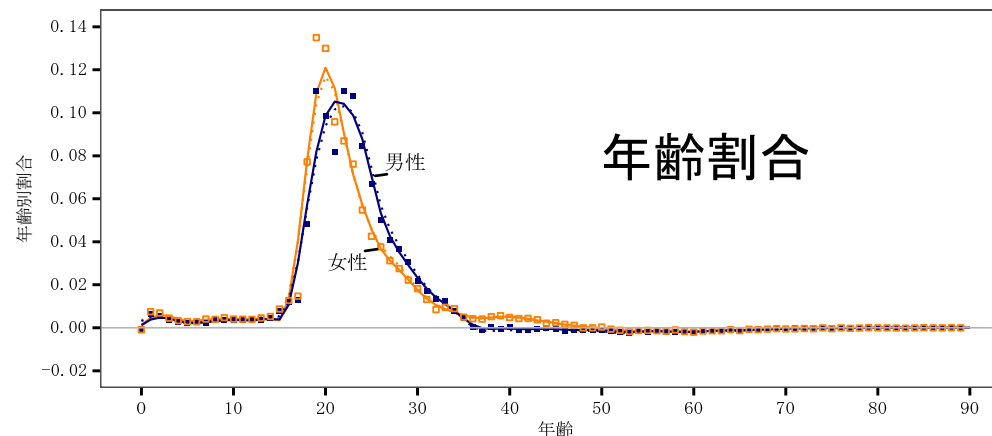
破線は前回推計仮定値。ドットは平成27(2015)～令和元(2019)年における日本人の男女年齢別入国超過率の平均値（ただし、年齢ごとに最大値、最小値を除く3か年の値を用いている）。実線はそれらを平滑化した今回推計仮定値。

# 国際人口移動仮定（外国人）

- 外国人の入国超過数は、新型コロナウイルス感染拡大期を除く近年の水準上昇を反映し、長期的投影水準は、前回推計の年間約6万9千人（2035年）から今回推計の年間約16万4千人（2040年）へと増加（p.46, 表4-4～4-5、p.48, 図4-4～4-5）。



破線は前回推計。外国人入国超過のうち男性の割合：49.8%



破線は前回推計仮定値。ドットは昭和61(1986)～令和元(2019)年の内、一時的な変動を除いたものの平均値。実線はそれらを平滑化した今回推計仮定値。

# 推計結果

～総人口は50年後に現在の7割に減少し、65歳以上人口はおよそ4割を占める。  
前回推計よりも出生率は低下するものの、平均寿命が延伸し、外国人の入国超過増  
により人口減少の進行はわずかに緩和～

# 将来推計人口（令和5年推計）の概要

## <今回の推計のポイント>

- 前回推計より出生率が低下(1.44→1.36)
- 前回推計より平均寿命は延伸し、外国人の入国超過数も増加したことで、総人口の人口減少は緩和

## 将来推計人口(令和5年中位推計)の結果

※《 》内は高齢化率

### 日本の総人口

<実績>	<今回推計>		(参考)
2020年	2070年	前回推計	2120年
1億2,615万人	→ <b>8,700万人</b>	[ 8,323万人 ]	→ 4,973万人
<b>65歳以上人口</b> 3,603万人 《28.6%》	→ <b>3,367万人</b> 《38.7%》	[ 3,188万人 《38.3%》 ]	→ 2,011万人 《40.4%》
<b>15~64歳人口</b> 7,509万人	→ <b>4,535万人</b>	[ 4,281万人 ]	→ 2,517万人
<b>0~14歳人口</b> 1,503万人	→ <b>797万人</b>	[ 853万人 ]	→ 445万人

出生仮定を変えた場合の2070年の総人口、高齢化率

高位推計 (1.64)	9,549万人 (35.3%)
低位推計 (1.13)	8,024万人 (42.0%)

## 合計特殊出生率の仮定(中位)

(2015年)	(2020年)		(2070年)
1.45	→ 1.33	→	<b>1.36</b> <1.44>
[1.43]	[1.31]		[1.29] <1.40>

※<>内は前回推計の仮定値、  
[]内は日本人女性の出生率

## 平均寿命の仮定(中位)

(2020年)		(2070年)	
男 81.58年	→	男 85.89年	<84.95年>
女 87.72年	→	女 91.94年	<91.35年>

## 外国人の入国超過数の仮定

(2016~2019年の平均)	→	年16万人 <7万人>
年16万人		

※2041年以降は2040年の総人口に対する比率を固定

※ 長期の投影に際しては、コロナ禍におけるデータは除外

## 関係指標(出生、死亡とも中位、総人口)

### 高齢者数(65歳以上人口)のピーク(時期、数)

2043年 3,953万人(前回推計 2042年 3,935万人)

### 高齢化率(65歳以上人口割合)のピーク

緩やかに上昇を続け2070年に**38.7%**

(前回推計 緩やかに上昇を続け2065年に38.4%)

### 総人口が1億人を下回る時期

**2056年** (前回推計 2053年)

# 将来人口年表（出生中位（死亡中位）推計）

推計時点で把握された人口動向に基づき将来投影した場合

【2020年】

総人口 1億2,615万人（高齢化28.6%）

総人口出生数86万件、総人口死亡数138万件

日本人出生数84万件、日本人死亡数137万件

年次	推計結果に基づく事象(カッコ内は前回推計)
2022	日本における出生が80万件を下回る(前回推計では2033年、以下同様)
2024	100歳以上人口が10万人を超える(2023年)
2027	65歳以上人口割合が30%を超える(2025年)
2031	日本における死亡が160万件を超える(2030年) 総人口の平均年齢が50歳を超える(2030年)
2032	15～64歳人口が7千万人を下回る(2029年)
2033	0～14歳人口が1千2百万人を下回る(2040年)
2035	18歳人口が100万人を下回る(2032年)
2038	(日本における日本人の出生が70万件を下回る(2043年))
2040	日本における死亡が167万件でピークを迎える(2039年、168万件)
2043	65歳以上人口が3千953万人でピークを迎える(2042年、3千935万人) 日本における出生が70万件を下回る(2046年)
2044	総人口が1億1千万人を下回る(2042年) 18歳人口が80万人を下回る(2052年)
2056	総人口が1億人を下回る(2053年)
2067	総人口が9千万人を下回る(2063年) 100歳以上人口が50万人に達し出生数を上回る(2063年に50万人)

日本の将来推計人口（令和5年推計）《結果および仮定の要約》  
推計結果の要約（死亡中位推計）(p.13)

出生率仮定 [長期の合計特殊出生率]		中位仮定 [ 1.36 ]	高位仮定 [ 1.64 ]	低位仮定 [ 1.13 ]	平成29年推計 中位仮定 [ 1.44 ]
死亡率仮定 [長期の平均寿命]		死亡中位仮定 [男= 85.89 年] [女= 91.94 年]			男=84.95年 女=91.35年
国際人口移動仮定 [長期の日本人入国超過率] [長期の外国人入国超過数]		[2015～19年の平均水準] [2040年に 163,791 人]			[2010～15年の平均水準] [2035年に69,275人]
総人口	令和2(2020)年	12,615 万人 ↓	12,615 万人 ↓	12,615 万人 ↓	12,532万人 ↓
	令和47(2065)年	9,159 万人	9,885 万人	8,570 万人	8,808万人
	令和52(2070)年	8,700 万人	9,549 万人	8,024 万人	[ 8,323万人 ]
0～14歳	令和2(2020)年	1,503 万人 11.9 %	1,503 万人 11.9 %	1,503 万人 11.9 %	1,507万人 12.0% ↓
	令和47(2065)年	836 万人 9.1 %	1,128 万人 11.4 %	620 万人 7.2 %	898万人 10.2%
	令和52(2070)年	797 万人 9.2 %	1,115 万人 11.7 %	569 万人 7.1 %	[ 853万人 ] [ 10.2% ]
15～65歳	令和2(2020)年	7,509 万人 59.5 %	7,509 万人 59.5 %	7,509 万人 59.5 %	7,406万人 59.1% ↓
	令和47(2065)年	4,809 万人 52.5 %	5,244 万人 53.0 %	4,437 万人 51.8 %	4,529万人 51.4%
	令和52(2070)年	4,535 万人 52.1 %	5,067 万人 53.1 %	4,087 万人 50.9 %	[ 4,281万人 ] [ 51.4% ]
65歳以上	令和2(2020)年	3,603 万人 28.6 %	3,603 万人 28.6 %	3,603 万人 28.6 %	3,619万人 28.9% ↓
	令和47(2065)年	3,513 万人 38.4 %	3,513 万人 35.5 %	3,513 万人 41.0 %	3,381万人 38.4%
	令和52(2070)年	3,367 万人 38.7 %	3,367 万人 35.3 %	3,367 万人 42.0 %	[ 3,188万人 ] [ 38.3% ]

注：平成29年推計の令和52(2070)年の数値（括弧内）は長期参考推計結果による。

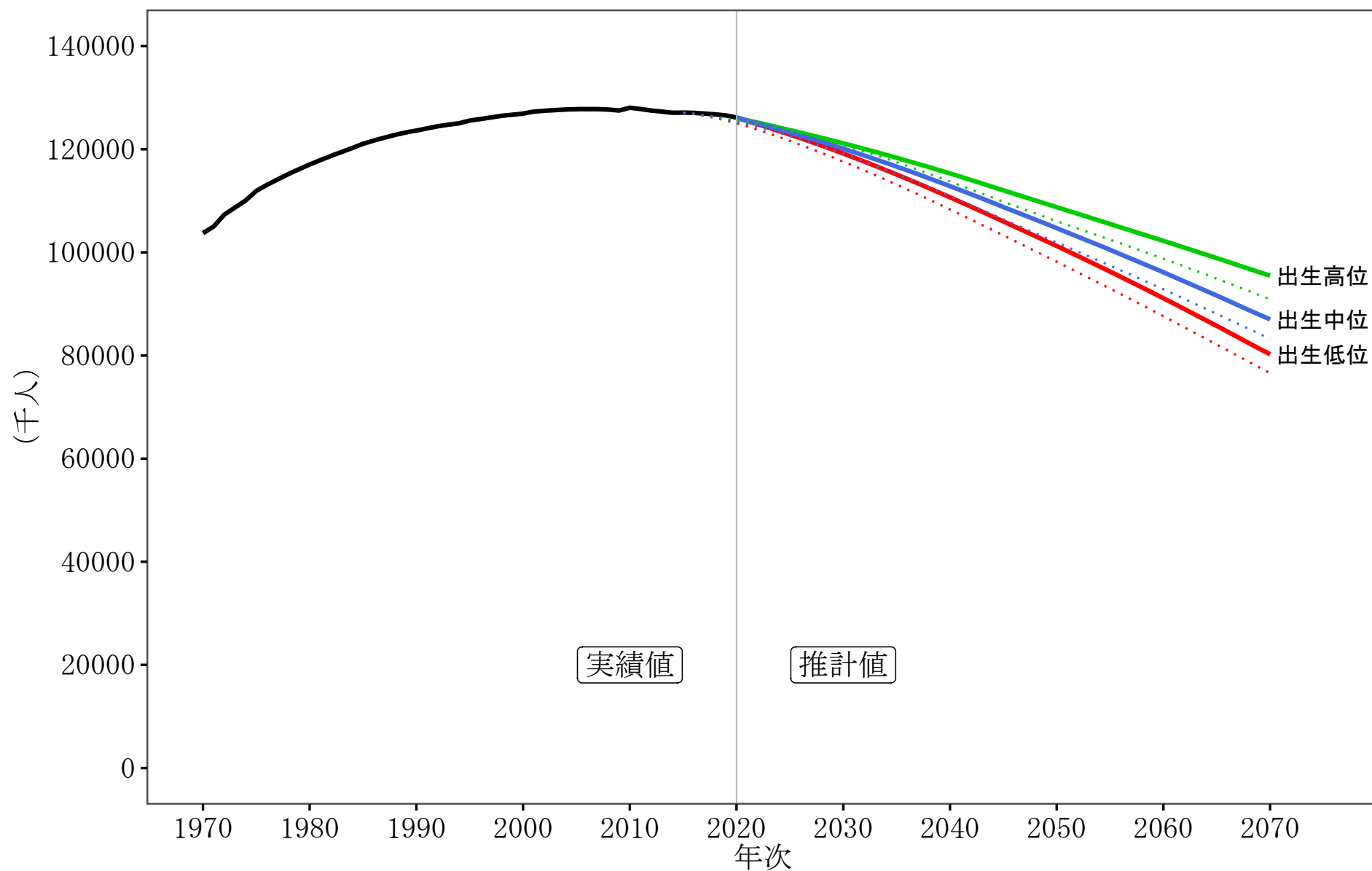


# 総人口の推移

# 総人口の推移

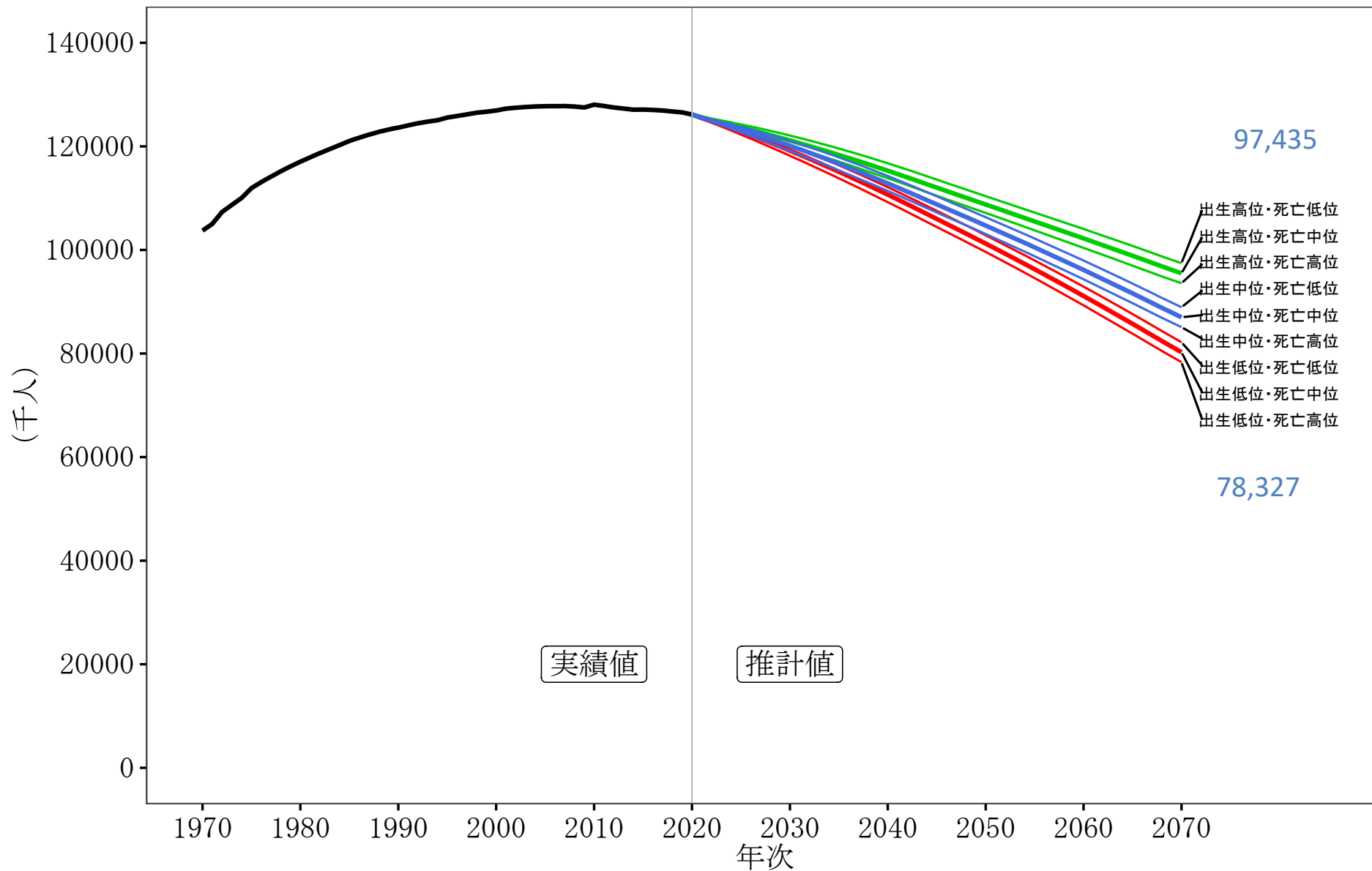
- 総人口は、令和2(2020)年国勢調査による1億2,615万人が2070年には8,700万人に減少すると推計（出生中位・死亡中位推計、以下同様）(p.19, 表1-1、p.26, 図1-1)。
- 前回推計と2065年時点で比較すると、総人口は8,808万人が9,159万人になる。総人口が1億人を下回る時期は2053年が2056年になり、人口減少の速度はわずかに緩む（p.13、p.19, 表1-1）。
- 2070年の総人口は、出生が高位仮定(1.64)の場合9,549万人、低位仮定(1.13)の場合、8,024万人(p.20~21, 表1-2~1-3、p.26, 図1-1~1-2)。

# 総人口の推移



実線は今回推計、破線は前回推計。

# 出生仮定・死亡仮定による推移の違い



実線は今回推計、破線は前回推計。

# 総人口：前回推計との比較

# 平成29年推計と令和5年推計との比較 (2065年総人口、出生中位(死亡中位)推計)

- 0～14歳人口の減少には、出生仮定がマイナスに寄与、外国人の国際人口移動仮定がプラスに寄与
- 15～64歳人口の増加には、出生仮定はマイナスに寄与、外国人の国際人口移動仮定がプラスに寄与
- 65歳以上人口の増加には、基準人口、死亡仮定、日本人の国際人口移動仮定がプラスに寄与

(単位:千人)

年齢	令和47(2065)年総人口		差						
	平成29年 推計	令和5年 推計	基準人口	出生	死亡	国際人口移動			
						日本人	外国人		
総数	88,077	91,587	3,510	1,074	-3,756	454	5,738	527	5,211
0～14歳	8,975	8,360	-616	87	-1,433	3	727	52	675
15～64歳	45,291	48,093	2,801	316	-2,323	88	4,720	310	4,411
65歳以上	33,810	35,134	1,324	671	0	363	290	165	125
<b>(寄与率)</b>									
総数			100.0%	30.6%	-107.0%	12.9%	163.5%	15.0%	148.5%
0～14歳			100.0%	-14.2%	232.8%	-0.5%	-118.1%	-8.4%	-109.7%
15～64歳			100.0%	11.3%	-82.9%	3.1%	168.5%	11.1%	157.5%
65歳以上			100.0%	50.7%	0.0%	27.4%	21.9%	12.5%	9.4%
<b>(構成割合)</b>									
0～14歳	10.2%	9.1%	-1.1%	0.0%	-1.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%
15～64歳	51.4%	52.5%	1.1%	-0.3%	-0.5%	-0.2%	2.0%	0.1%	1.9%
65歳以上	38.4%	38.4%	0.0%	0.3%	1.7%	0.2%	-2.2%	-0.1%	-2.2%
<b>(寄与率)</b>									
0～14歳			100.0%	2.3%	115.8%	4.1%	-22.3%	-0.5%	-21.8%
15～64歳			100.0%	-24.4%	-43.2%	-15.2%	182.8%	4.6%	178.2%
65歳以上			100.0%	-1153.7%	-6765.3%	-832.5%	8851.4%	223.1%	8628.3%

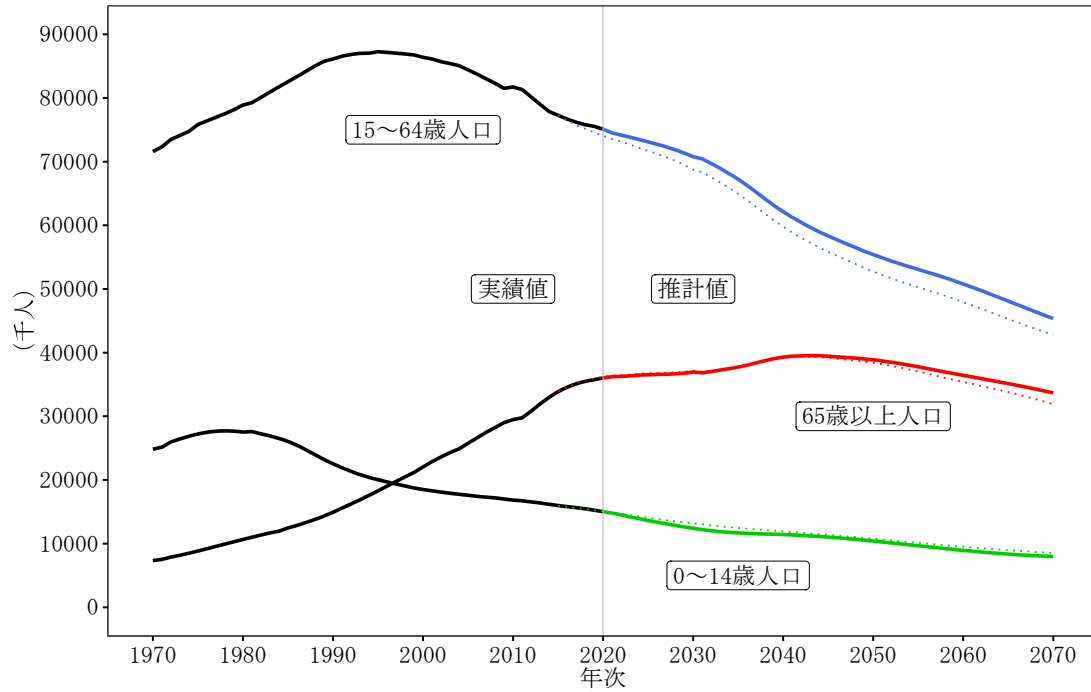
# 年齡構造

# 65歳以上人口

- 総人口に占める65歳以上の人口の割合（高齢化率）は、2020年の28.6%から2070年には38.7%へと上昇(p.19, 表1-1、 p.26, 図1-2)。
- 65歳以上の人口（高齢者数）のピークは、前回の2042年で3.935万人が、今回の2043年で3,953万人に(p.19,表1-1)。
- 前回推計と2065年時点で比較すると、65歳以上人口割合はともに38.4%で変わらず(p.13、 p.19, 表1-1)。
- 2070年の65歳以上人口割合（高齢化率）は、出生が高位仮定(1.64)の場合35.3%、低位仮定(1.13)の場合、42.0%(p.20～21, 表1-2～1-3、 p.26, 図1-1～1-2)。
- 老年人口指数（15～64 歳人口100に対する65 歳以上人口の比）は、2020年の48.0から2070 年には74.2と推計される（ p.22, 表1-4）。

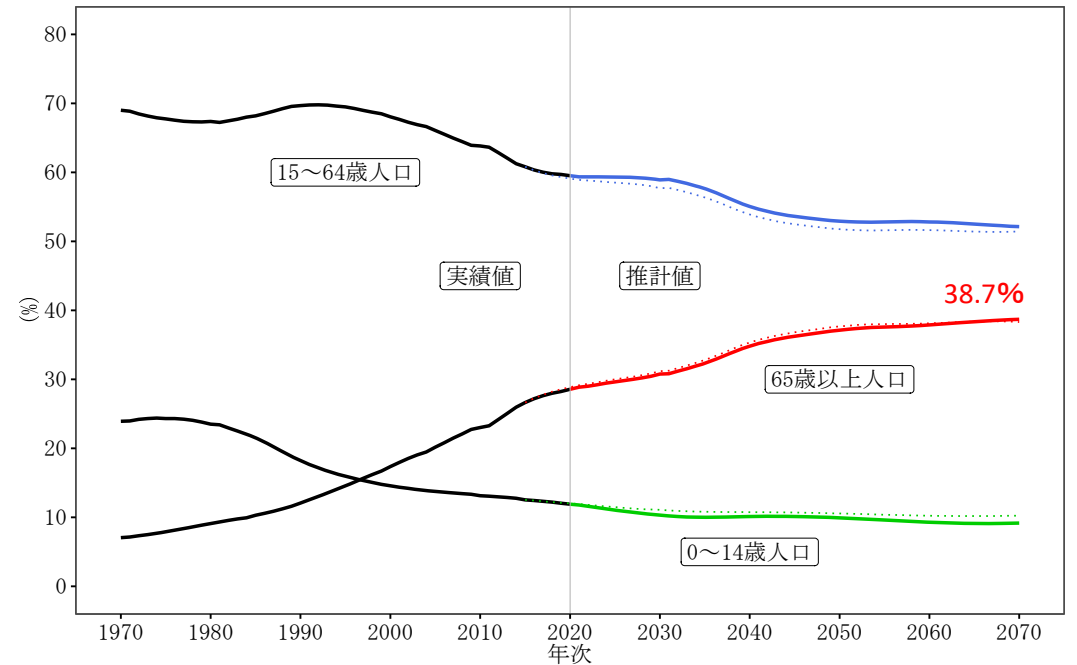


# 年齢3区分別人口の推移：出生中位（死亡中位）推計



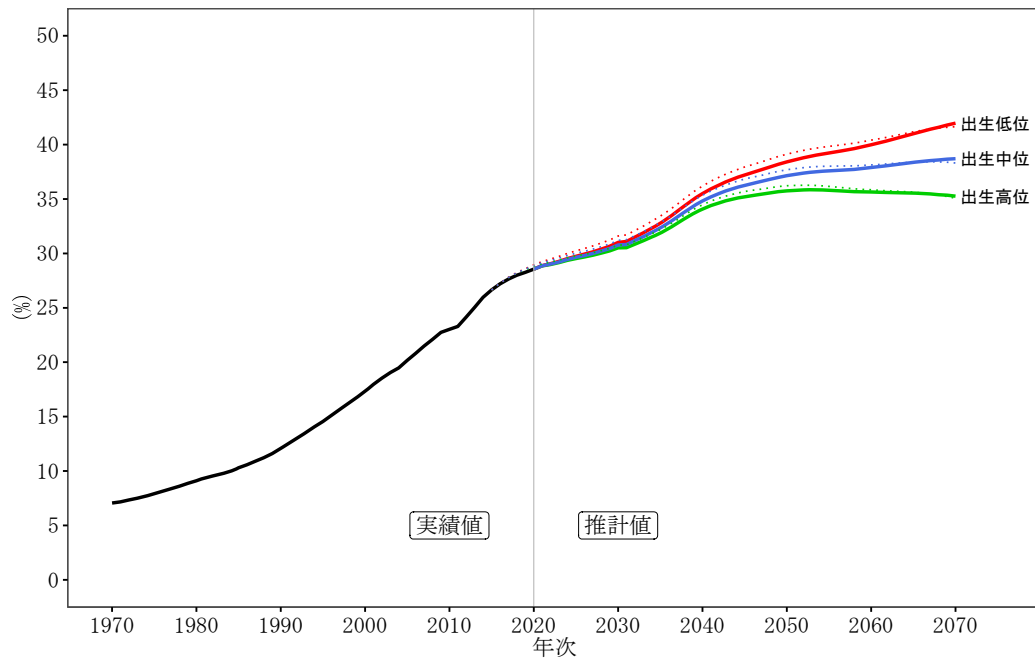
破線は前回中位推計。

# 年齢3区分別人口割合の推移：出生中位（死亡中位）推計



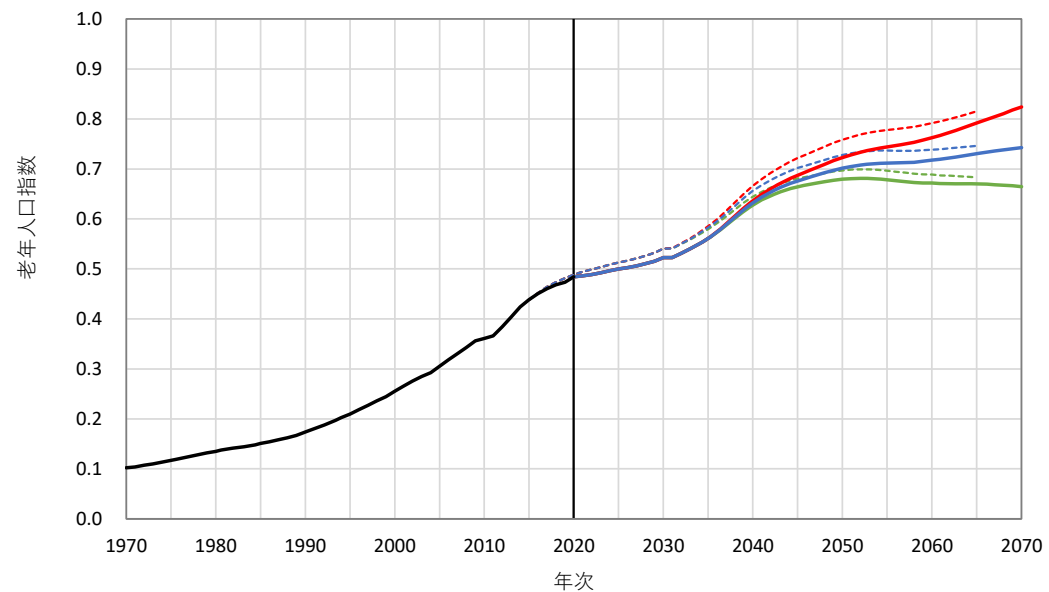
破線は前回中位推計。

## 65歳以上人口割合の推移：出生中位・高位・低位（死亡中位）推計



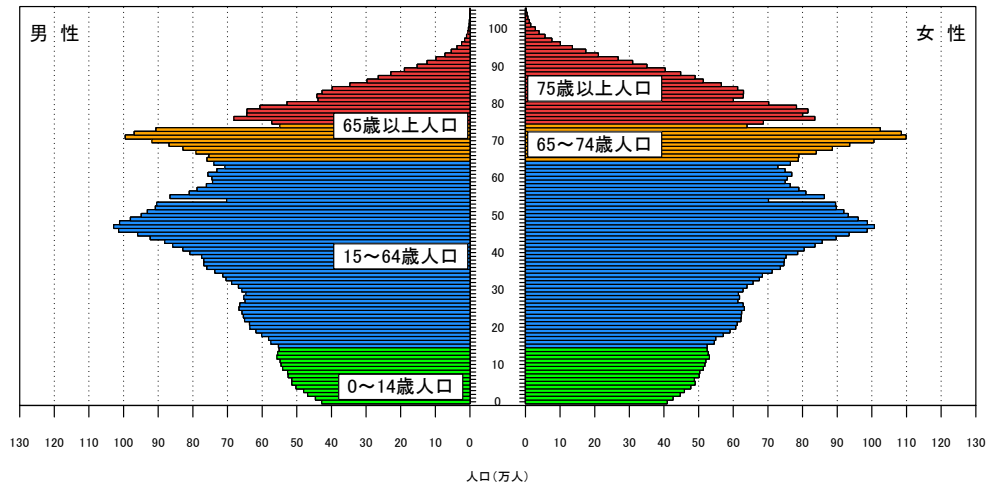
実線は今回推計、破線は前回推計。

## 老年人口指数（65+/15~64）：出生中位・高位・低位（死亡中位）推計

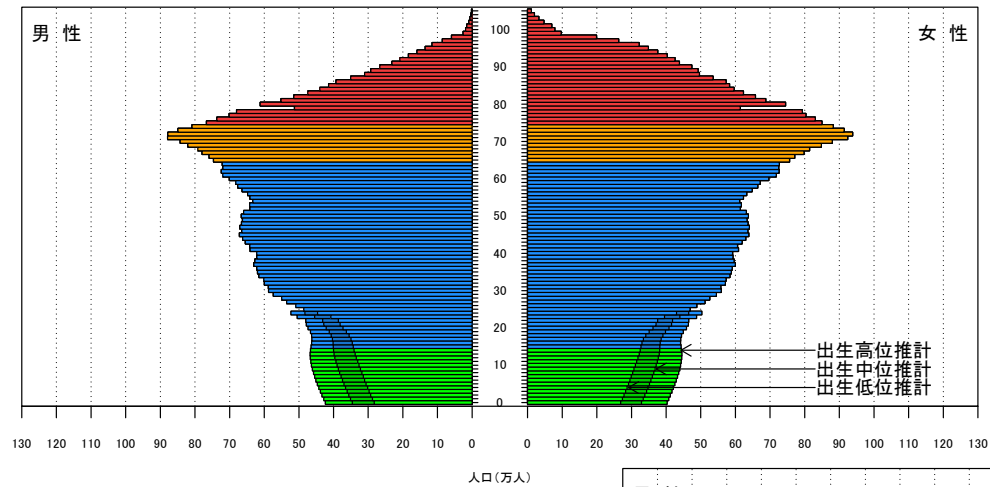


----- 平成29年推計高位老年人口指数      - - - - - 平成29年推計低位老年人口指数      - - - - - 平成29年推計中位老年人口指数  
 \_\_\_\_\_ 新推計高位老年人口指数                      \_\_\_\_\_ 新推計低位老年人口指数                      \_\_\_\_\_ 新推計中位老年人口指数  
 \_\_\_\_\_ 実績老年人口指数

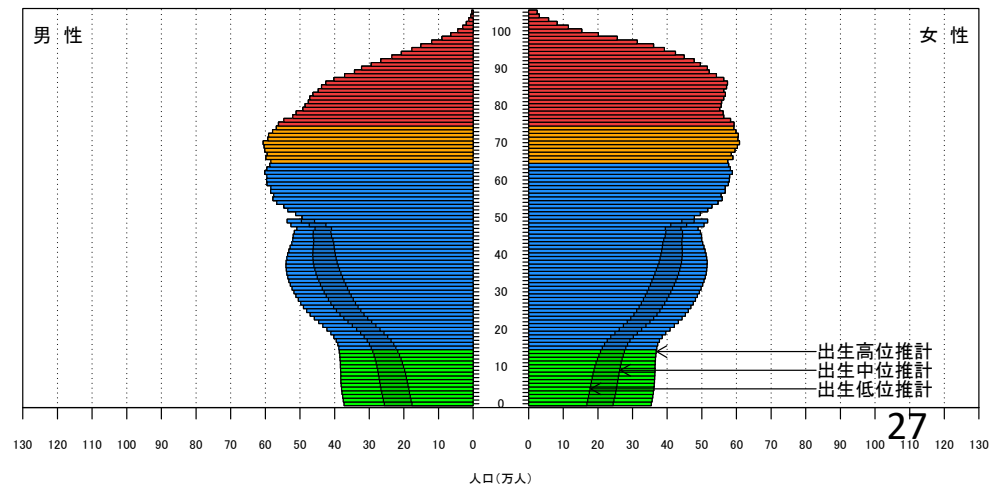
(1) 令和2(2020)年



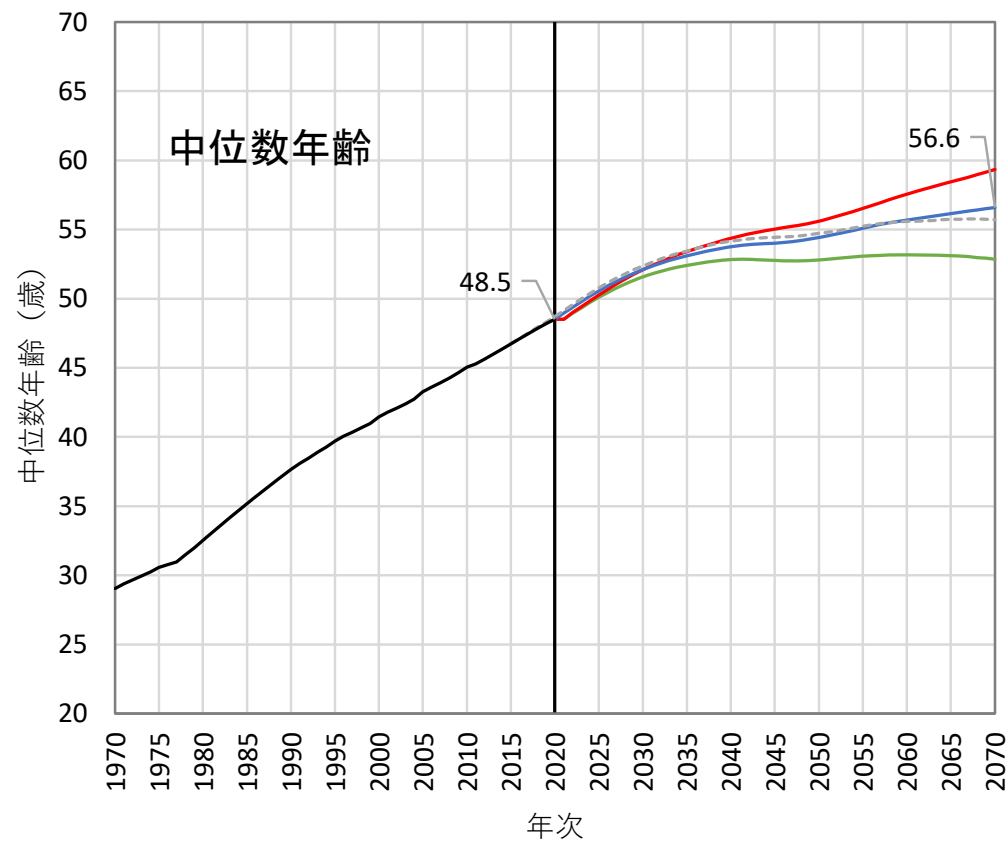
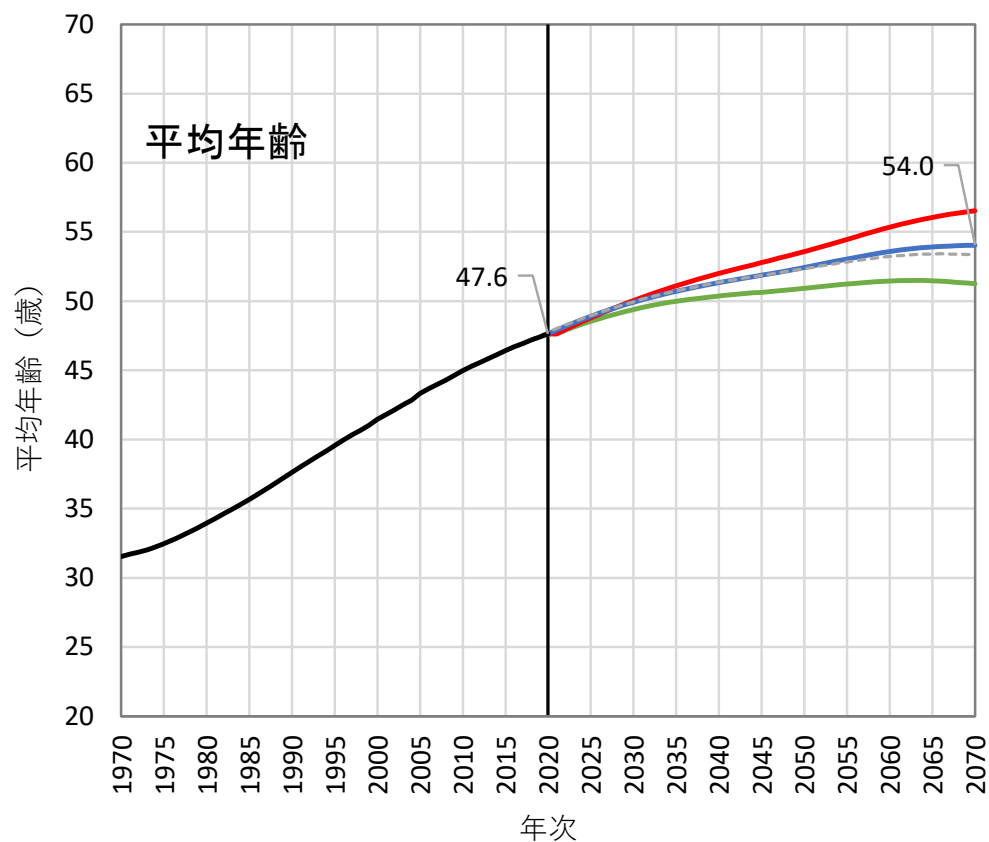
(2) 令和27(2045)年



(3) 令和52(2070)年



# 平均年齢、中位数年齢：出生中位・高位・低位（死亡中位）推計



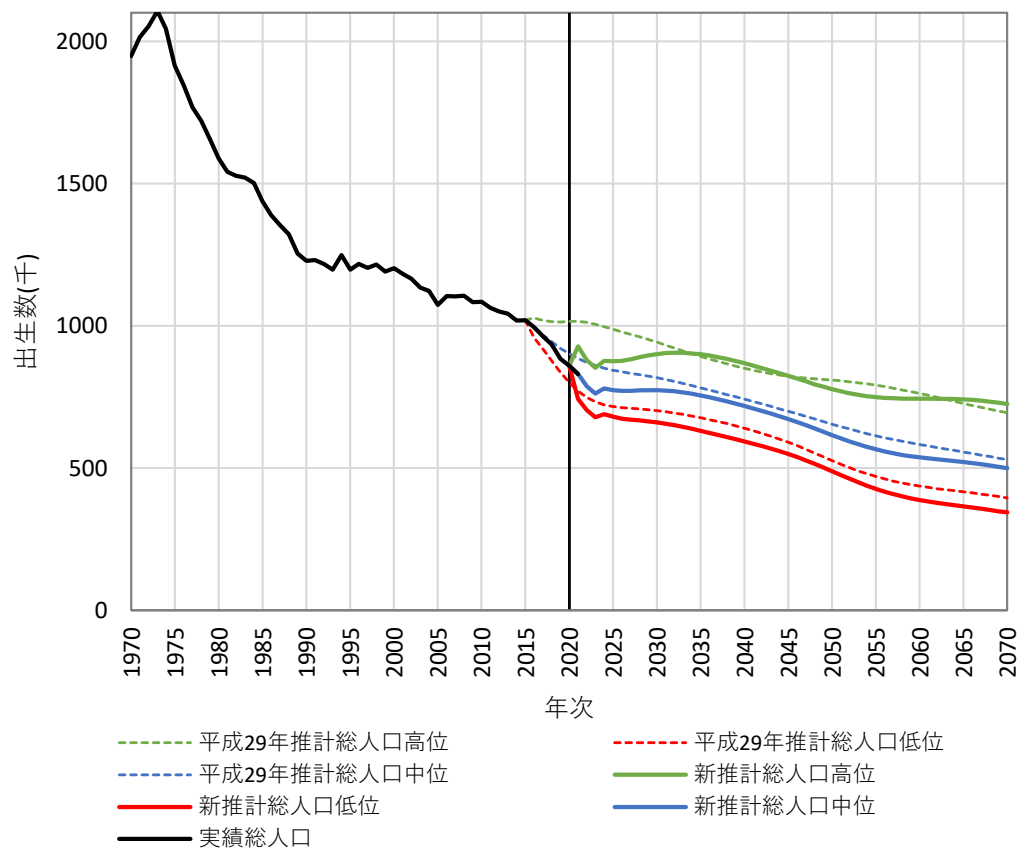
— 新推計高位-平均年齢      — 新推計低位-平均年齢  
— 新推計中位-平均年齢      - - - - - 平成29年推計中位-平均年齢  
— 実績-平均年齢

— 新推計高位-中位数年齢      — 新推計低位-中位数年齢  
— 新推計中位-中位数年齢      - - - - - 平成29年推計中位-中位数年齢  
— 実績-中位数年齢

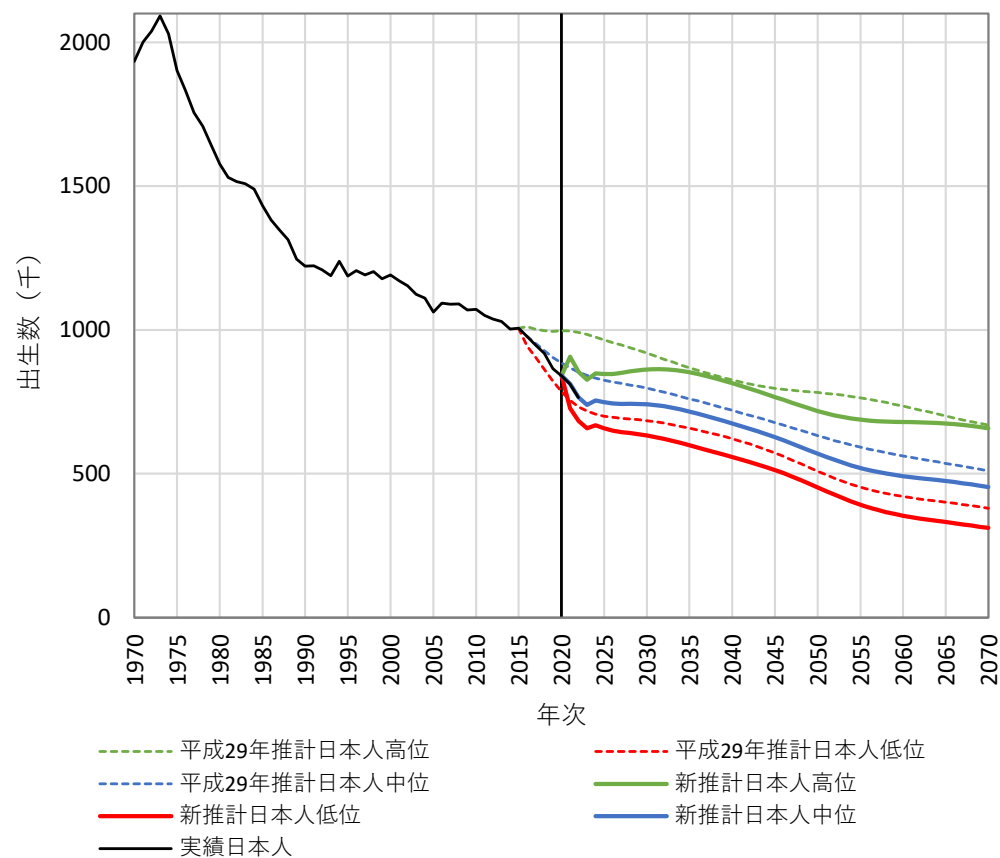
人口動態数：出生・死亡・国際人口移動

# 出生数（日本における出生、日本における日本人の出生）

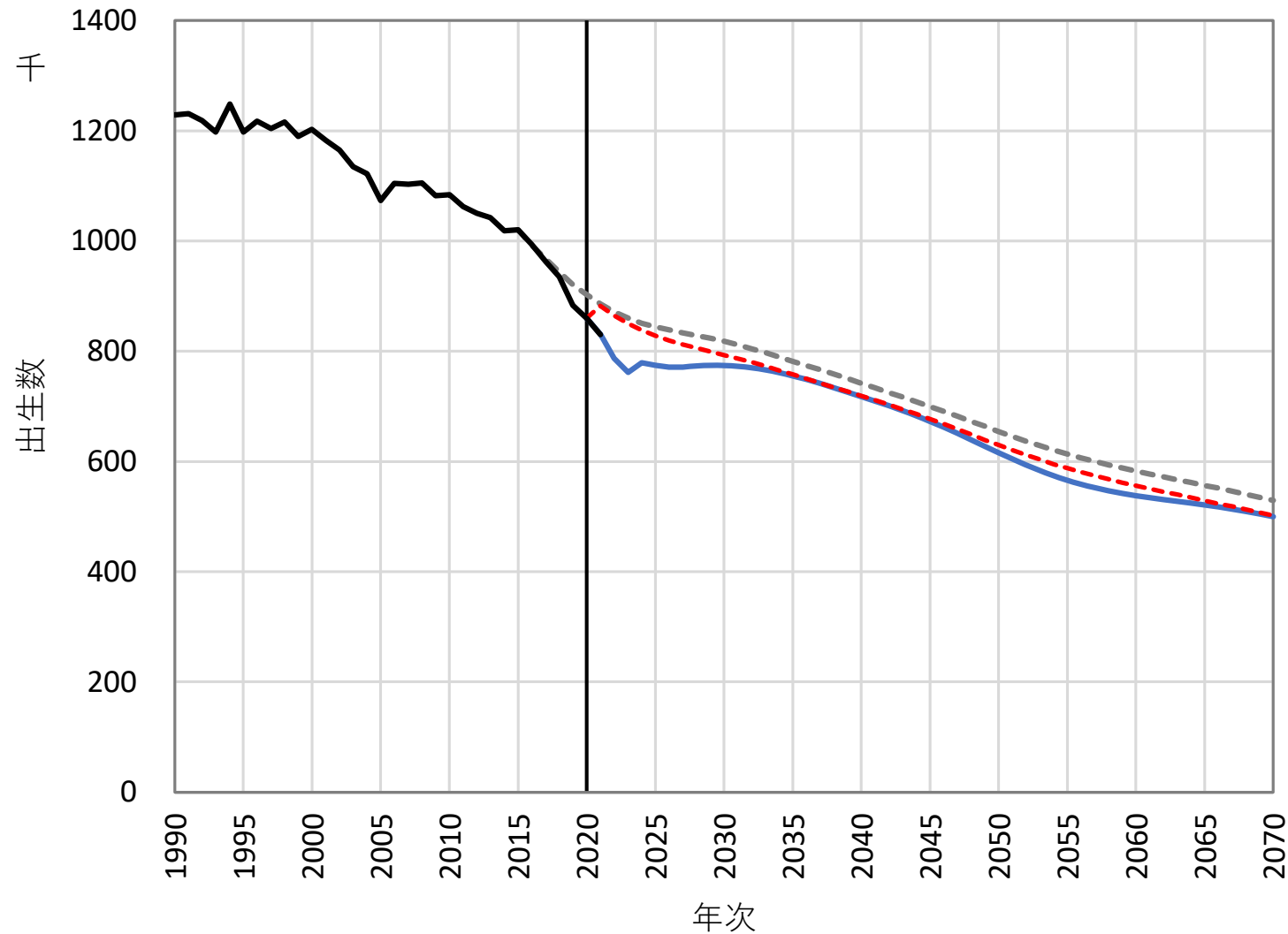
## 日本における出生



## 日本における日本人の出生



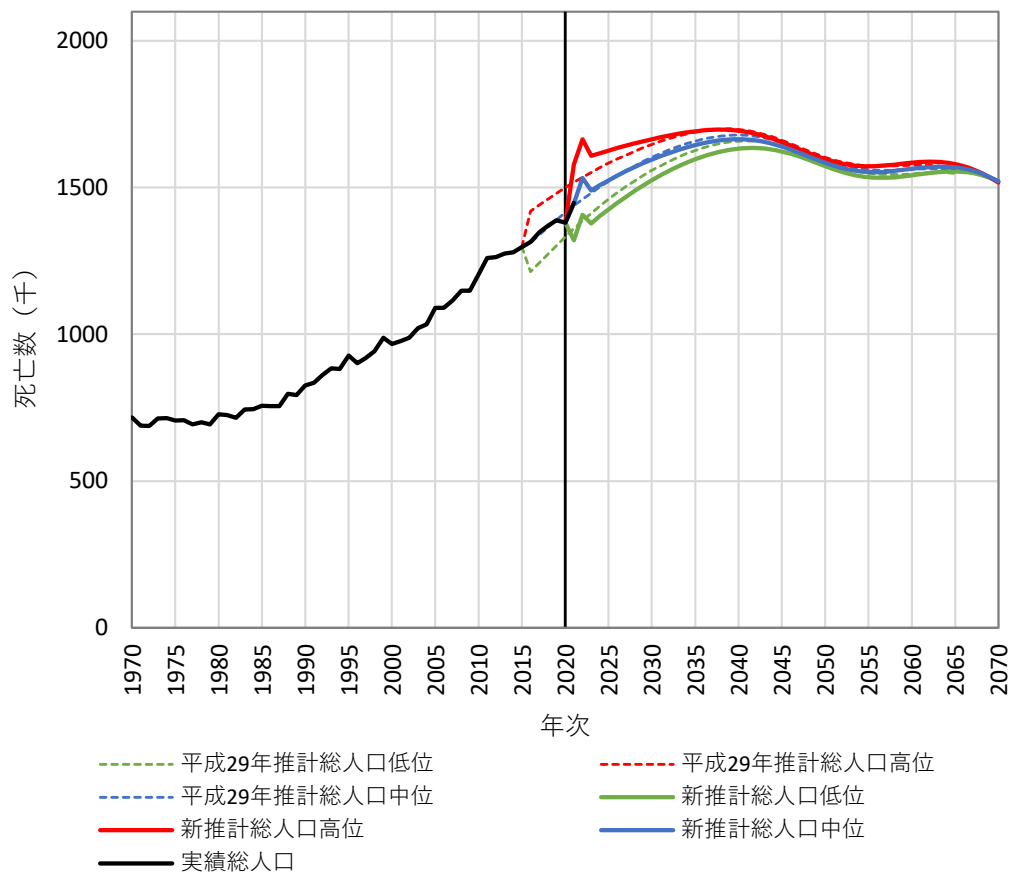
(参考) 前回出生中位 (死亡中位) 推計、**コロナ禍における実績値**  
**を反映する前の出生数**、今回出生中位 (死亡中位) 推計



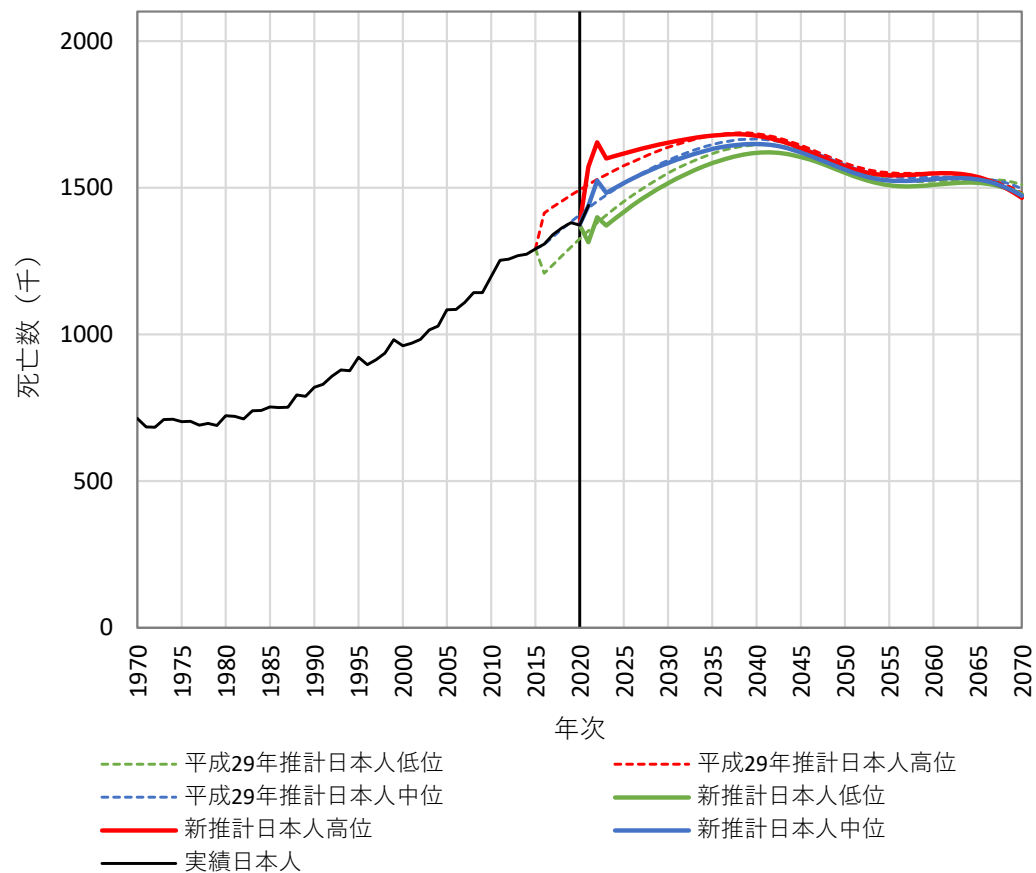
----- 平成29年推計総人口中位      ———— 新推計総人口中位  
- - - - 新推計総人口中位コロナなし      ———— 実績総人口

# 死亡数（日本における死亡、日本における日本人の死亡）

## 日本における死亡

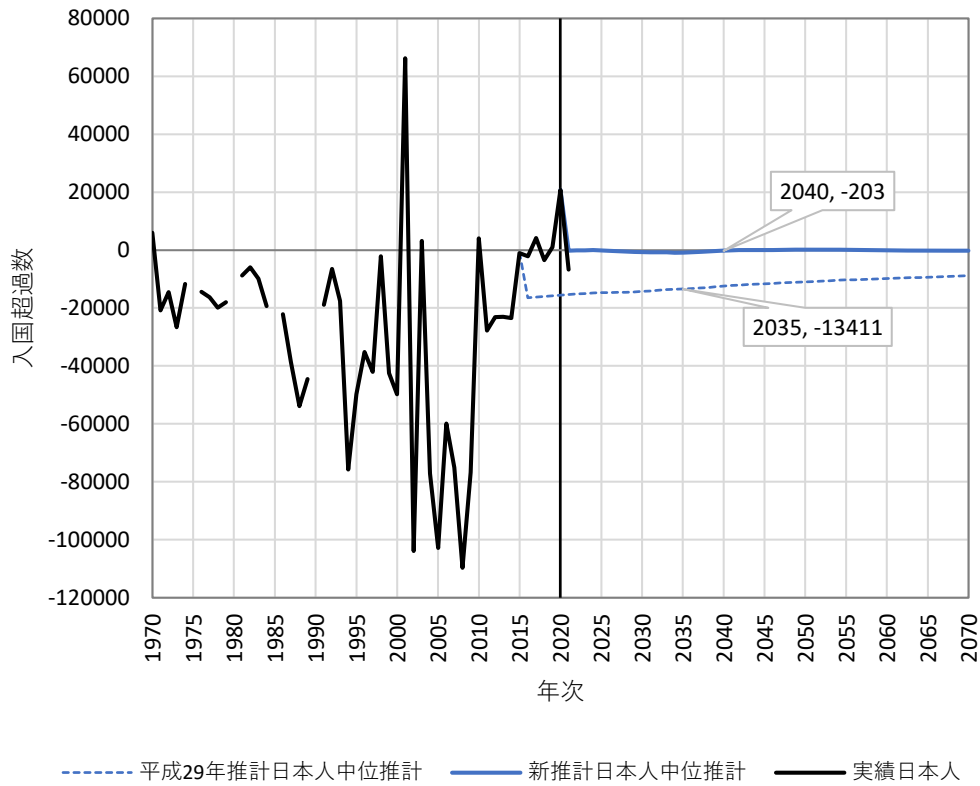


## 日本における日本人の死亡

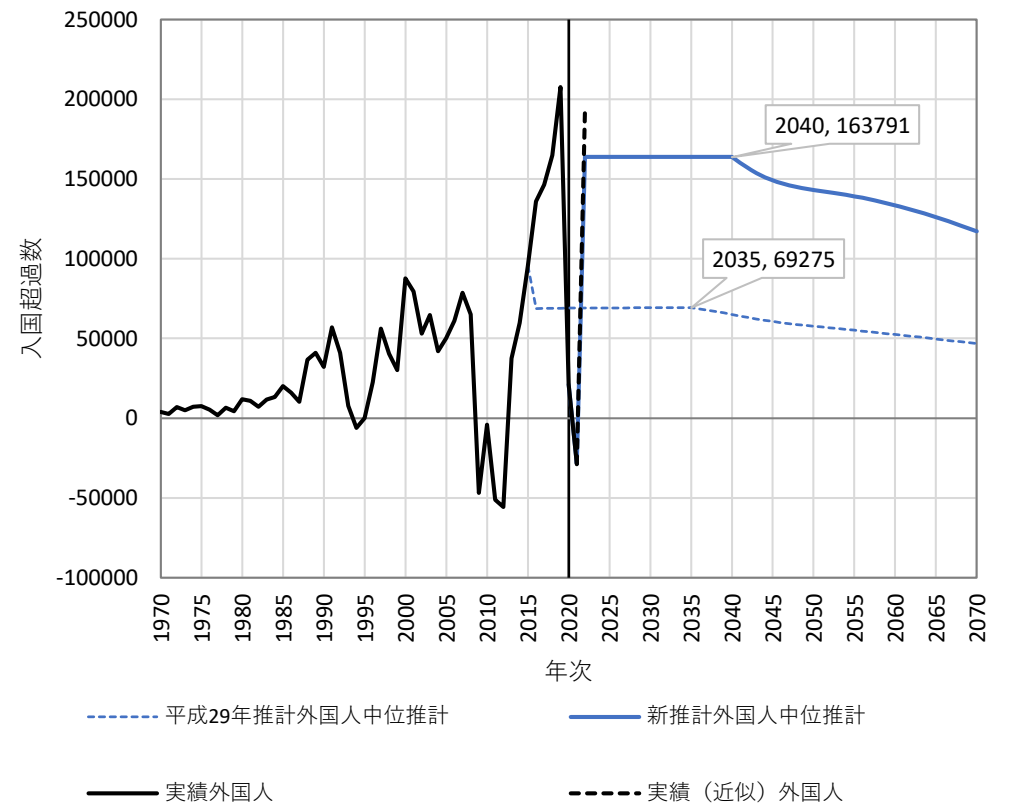




### 日本人の入国超過数（出生中位（死亡中位））



### 外国人の入国超過数（出生中位（死亡中位））

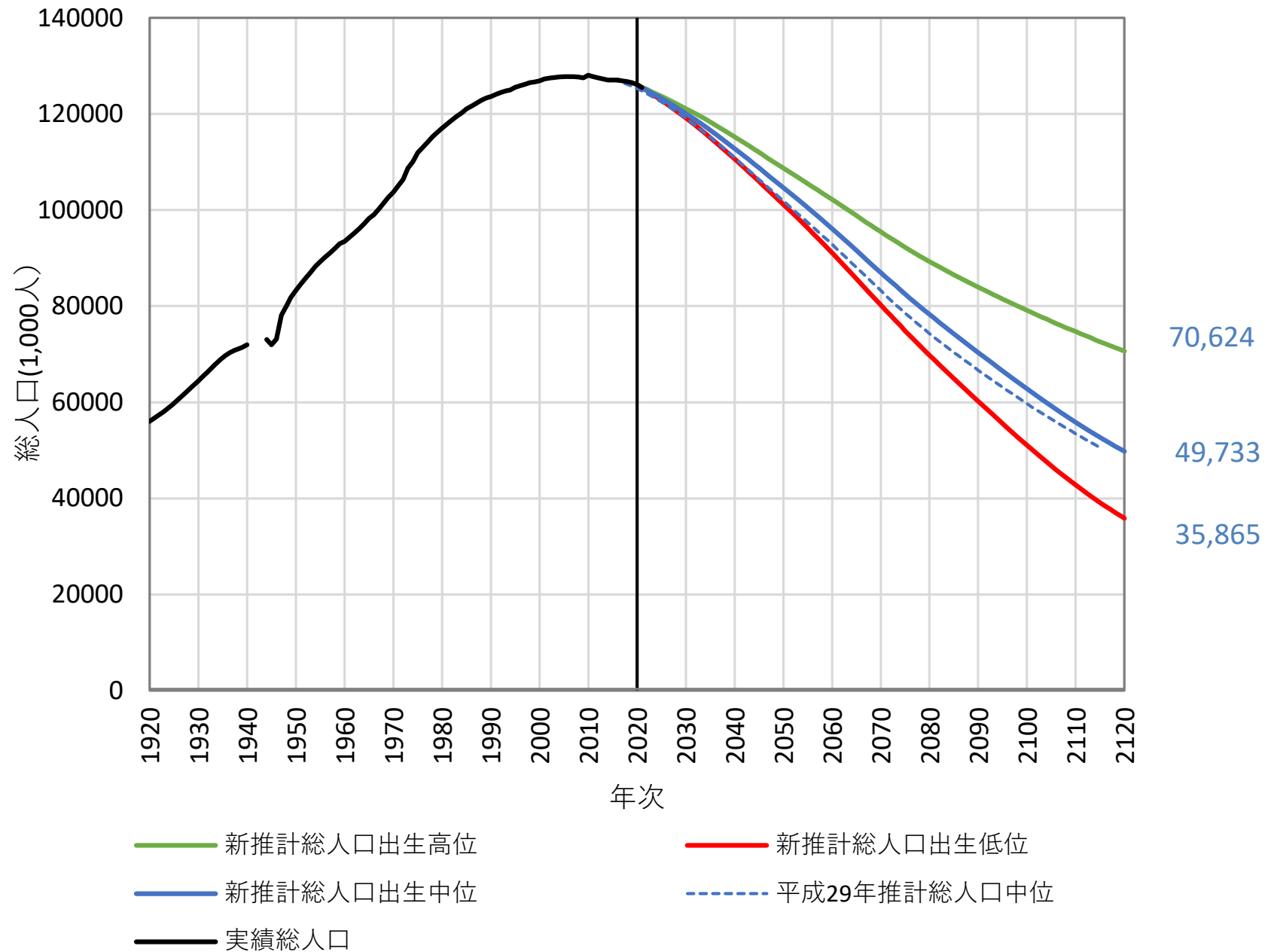


## 長期参考推計・日本人人口参考推計・条件付推計

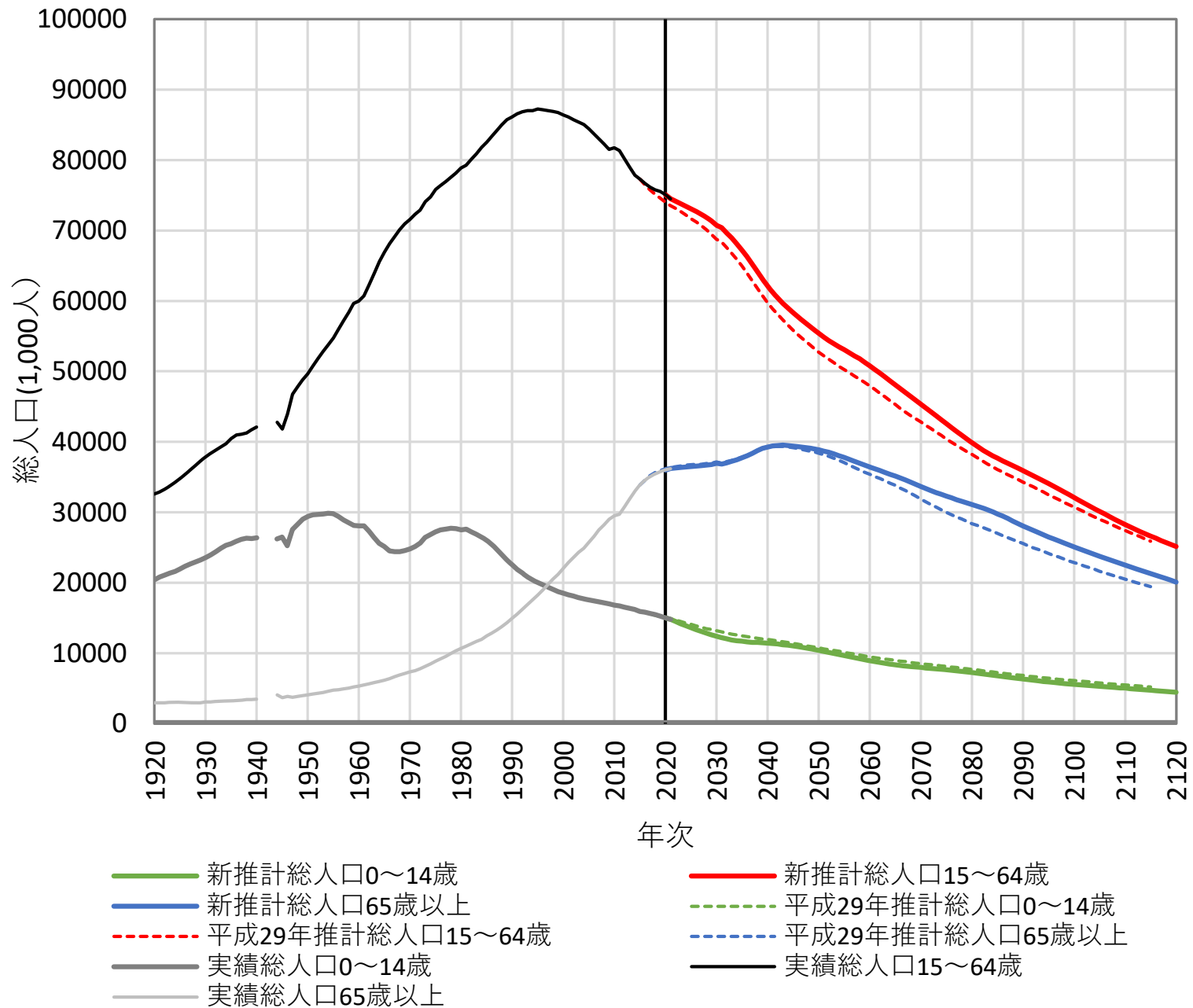
- この推計においては、9本の「基本推計」に加え、人口分析の参考などにする観点から「長期参考推計」「日本人人口参考推計」「条件付推計」を附している。
- 長期参考推計は、基本推計の期間は2070年までであるが、長期の人口推移分析の参考とするため、2071年から2120年について長期参考推計を行った（参考表1～参考表6）。出生率、出生性比、生残率、国際人口移動率は2071年以降一定とした。
- 基本推計は外国人を含んだ日本における総人口について行われるが、日本人人口に限定した人口動態率を将来について連続的に観察できるように、日本人人口に限定した推計結果を、日本人人口参考推計として行った（日本人参考推計表1～2、日本人参考推計図1～5、日本人参考推計表3）
- 条件付推計とは、仮定値を機械的に変化させた際の将来人口の反応を分析するための定量的シミュレーションであり、基本推計の結果をよりよく理解するために、毎回これに合わせて実施しているものである。出生率と外国人の国際人口移動の水準を様々に変化させた際の将来人口に関する反実仮想シミュレーションの結果を示した（条件付推計表1～条件付推計表4）。

# 長期参考推計

# (参考推計) 長期参考推計 (2021~2120年) 総人口



# (参考推計) 長期参考推計 (2021~2120年) 年齢3区分別人口



前回（平成29（2017）年）推計と同様に、出生率や外国人の国際人口移動の仮定値を機械的に変化させた場合の条件付推計も別途実施。様々な仮定における将来の人口の姿を確認することができる。

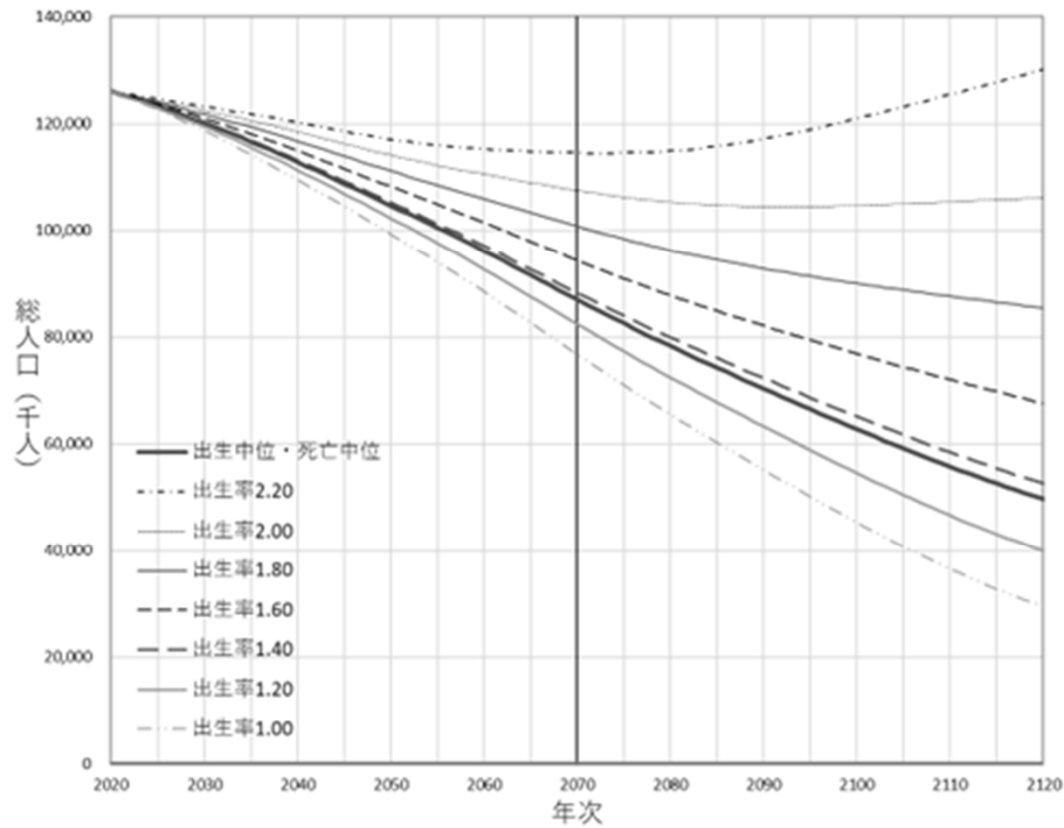
## 条件付推計（出生、国際人口移動）

## 条件付推計及びその手法について

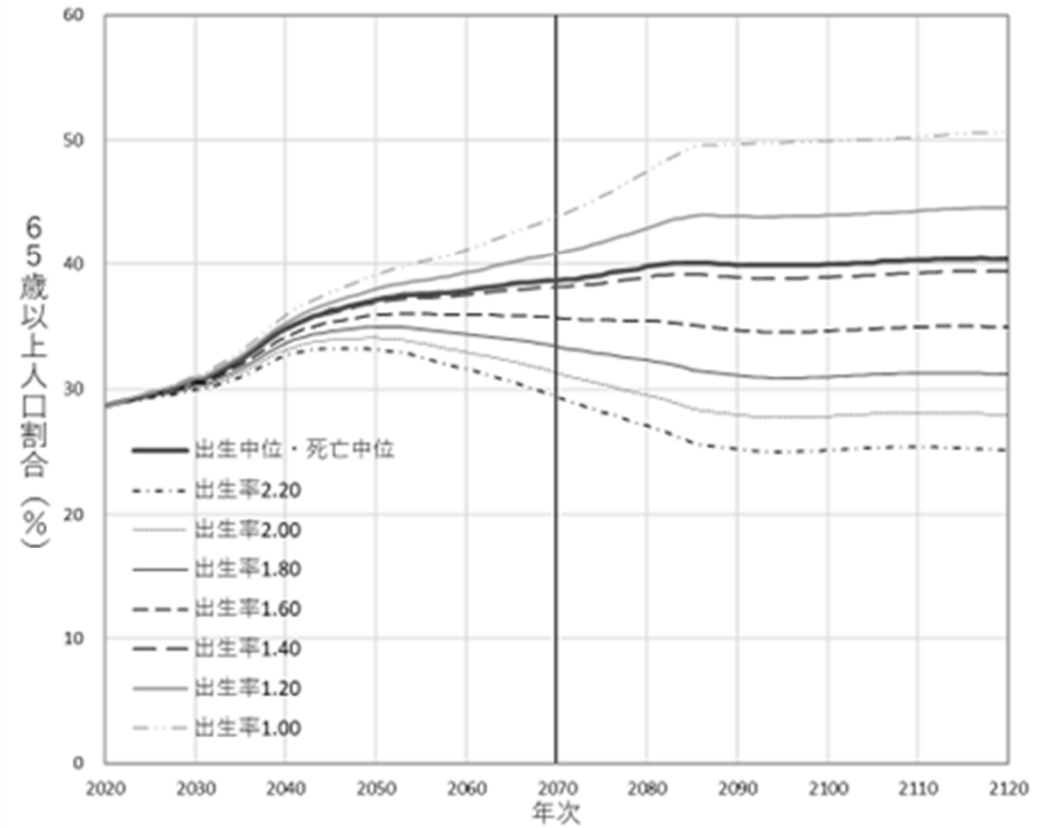
1. 今回の概要版に附した条件付推計は、「感応度分析」と呼ばれるシミュレーションであり、出生率と外国人の国際人口移動の水準が様々に変化した場合に対応した将来人口に関する反実仮想シミュレーションを行ったものである。
2. シミュレーションに用いた手法は以下の通りである。まず、出生率については、基本推計の中位・高位・低位の3仮定を用い、各年における3仮定の年齢別出生率を線形補間（補外）することによって年齢別出生率を作成することとした。出生率の水準については、2070年における合計特殊出生率（人口動態調査と同定義）が1.00, 1.20, 1.40, 1.60, 1.80, 2.00, 2.20となるような線形補間（補外）比を求め、これを固定して他の年次にも適用することとした。
3. 外国人の移動仮定については、基本推計における2040年における年間の入国超過数が約16.4万人であることから、この時点における入国超過数について0万人、5万人、6.9万人（前回推計の外国人入国超過数の2035年における水準）、10万人、25万人、50万人、75万人、100万人となるような比率を求め、これを2040年まで固定した。なお、2040年以降は基本推計で行っているのと同様、2040年の性、年齢別入国超過率（ただし日本人・外国人を合わせた総人口を分母とする）を求め、2041年以降はその率が一定となるものとして推計を行った。

# (参考推計) 条件付推計：出生7水準と中位推計

## 総人口の将来見通し



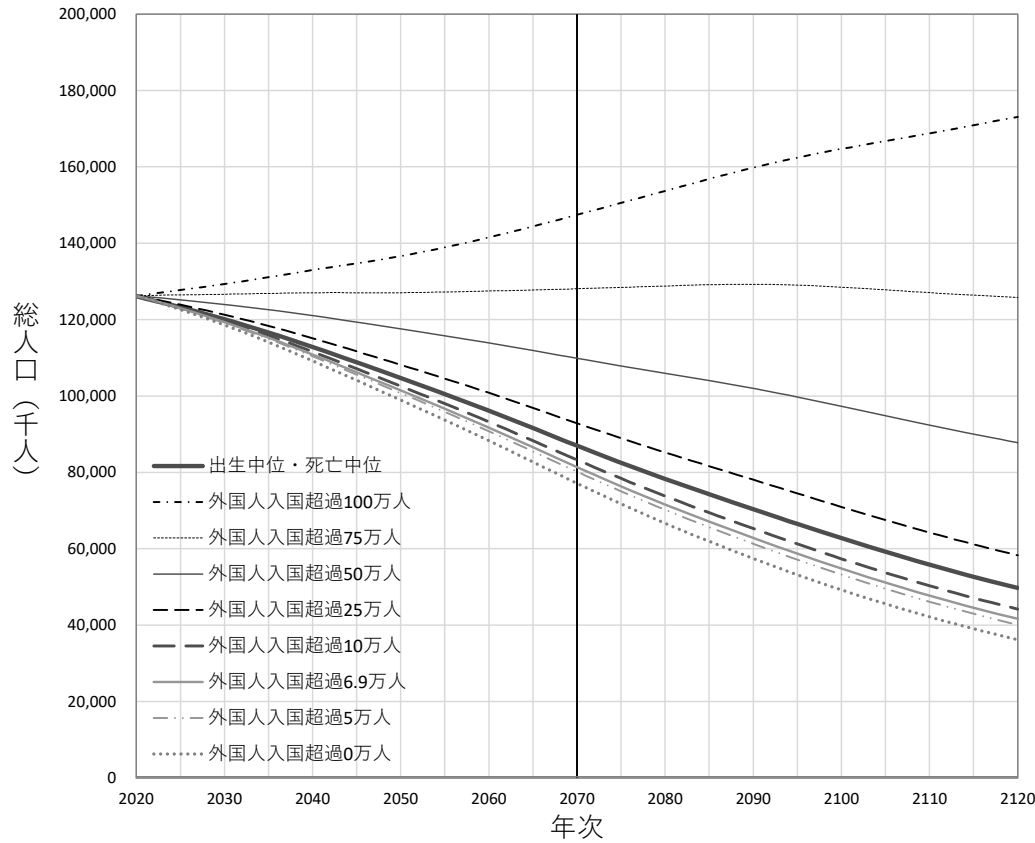
## 65歳以上人口割合の将来見通し



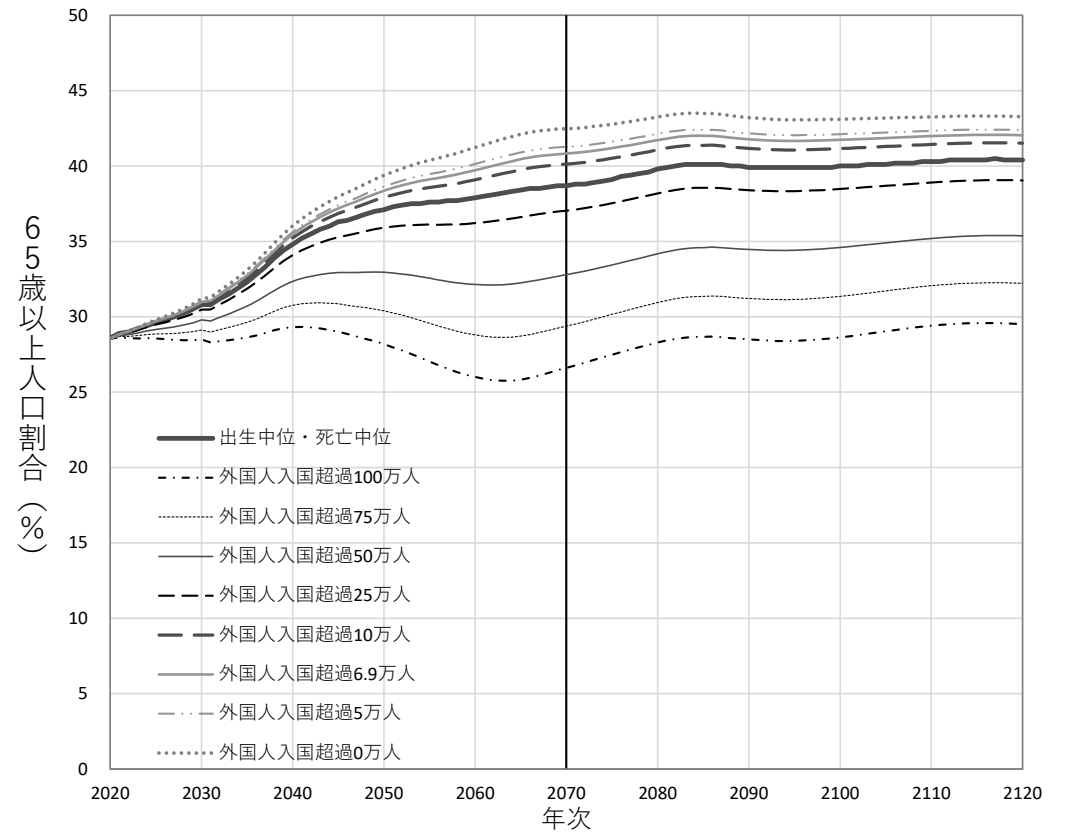


# (参考推計) 条件付推計：外国人国際人口移動8水準と中位推計

## 総人口の将来見通し



## 65歳以上人口割合の将来見通し



# 条件付推計結果のまとめ

総人口、65歳以上人口、65歳以上人口割合(総人口)：出生条件(2070年)合計特殊出生率1.00, 1.20, 1.40, 1.60, 1.80, 2.00, 2.20各推計値

年次	出生率(2070年)							基本推計
	1.00	1.20	1.40	1.60	1.80	2.00	2.20	
総人口(1,000人)								1.36
令和2(2020)	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146
52(2070)	76,751	82,351	88,256	94,353	100,767	107,500	114,553	86,996
102(2120)	29,529	39,977	52,611	67,624	85,354	106,095	130,151	49,733
65歳以上人口(1,000人)								
令和2(2020)	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027
52(2070)	33,671	33,671	33,671	33,671	33,671	33,671	33,671	33,671
102(2120)	14,946	17,810	20,725	23,648	26,627	29,663	32,755	20,109
65歳以上人口割合(%)								
令和2(2020)	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6
52(2070)	43.9	40.9	38.2	35.7	33.4	31.3	29.4	38.7
102(2120)	50.6	44.6	39.4	35.0	31.2	28.0	25.2	40.4

各年10月1日現在の総人口(日本における外国人を含む)。令和2年(2020)年は、総務省統計局『令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果』による。基本推計は出生中位・死亡中位推計。

総人口、65歳以上人口、65歳以上人口割合(総人口)：国際人口移動条件(2040年)外国人入国超過数, 0万人, 5万人, 6.9万人(前回推計の外国人入国超過数の2035年における水準), 10万人, 25万人, 50万人, 75万人, 100万人各推計値

年次	国際人口移動条件(2040年)								基本推計
	0万人	5万人	6.9万人	10万人	25万人	50万人	75万人	100万人	
総人口(1,000人)									16.4万人
令和2(2020)	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146	126,146
52(2070)	77,151	80,187	81,371	83,277	92,869	109,878	128,096	147,451	86,996
102(2120)	36,208	40,072	41,632	44,202	58,268	87,797	125,778	173,103	49,733
65歳以上人口(1,000人)									
令和2(2020)	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027	36,027
52(2070)	32,763	33,092	33,218	33,420	34,401	36,026	37,638	39,238	33,671
102(2120)	15,666	16,984	17,505	18,351	22,751	31,053	40,517	51,088	20,109
65歳以上人口割合(%)									
令和2(2020)	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6
52(2070)	42.5	41.3	40.8	40.1	37.0	32.8	29.4	26.6	38.7
102(2120)	43.3	42.4	42.0	41.5	39.0	35.4	32.2	29.5	40.4

各年10月1日現在の総人口(日本における外国人を含む)。令和2年(2020)年は、総務省統計局『令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果』による。基本推計は出生中位・死亡中位推計。

# 日本の将来推計人口(令和5年推計)のまとめ

令和2(2020)年国勢調査を出発点とした新推計(出生中位(死亡中位推計))の仮定および主な結果は以下のとおり。

- 長期の出生率仮定は1.44から1.36に下方改訂。2020年代は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて1.2台で推移と仮定。
- 長期の平均寿命は前回仮定からわずかに伸長(男性85年が86年に、女性91年が92年に)。
- 国際人口移動は、日本人は出国超過傾向が緩和、外国人は入国超過数が増加(年間7万人から16万人に)。
- 総人口は50年後の2070年に現在の7割に減少(1億2,615万が8700万に)。65歳以上人口はおよそ4割を占める社会に。
- 前回推計よりも出生率は低下するものの、平均寿命が延伸し、外国人の入国超過増により人口減少の進行はわずかに緩和される見込み。総人口が1億人を下回る時期は2053年が2056年に、15~64歳人口が7千万人を下回る時期は2029年が2032年に先送りに。
- 日本人の出生数は2020年に84万件、死亡数は137万件。出生数は2038年に70万件を下回り、死亡数は2040年に165万件でピークを迎える。